

デザートセンター探索特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!

地球救済活動を続ける異星人(2)

飛行機を助けた謎のUFO

奇跡を起こす反復思念とイメージ法

善だけを探し求めてテレパシーが発現

ジョージ・アダムスキーと異星人(完)

SUMMER
1992

117



〈巻頭言〉 真実と隠蔽

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現!

〈写真〉 奈良市上空のUFO	山岡 龍夫	17
地球救済活動を続ける異星人(2)	秋山 真人	18
飛行機を助けた謎のUFO		23
奇跡を起こす反復思念とイメージ法	久保田八郎	24
〈予告〉 チリ・アルゼンチン・イースター島宇宙ロードの旅		27
科学—SCIENCE		30
GAP短信		32
善だけを探し求めてテレパシーが発現／ひとりで物品が動く現象——小川 隆志／大嶋 順子		33
思いどおりに出現するUFO	中島 直仁	34
〈写真〉 UFOを東京タワーより撮影	佐々木八郎	35
高松支部UFO写真展		36
〈予告〉 大阪支部特別月例会／日本GAP本部UFO観測会		37
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)	アリス・ボマロイ	38
〈投稿欄〉 ユーコン広場		46
本誌バックナンバー掲載記事目録		48
英文版第7号／編集後記		49
〈広告〉 新アダムスキー全集		50
〈広告〉 GAPグッズ		51
日本GAP全国月例研究会案内		52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の四形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”的子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもつて知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”的理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・プラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることがあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国民党はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・プラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

南カロライナ州の円盤(2)

1980年4月4日、午後5時半から6時までのあいだ、ビル・ハーマンという人が原野の上空に出現した直径約12メートルの円盤に仰天し、手にしていたカメラで連続数枚撮影した。円盤は木の葉運動を繰りいていたが、ブーンという音を出すこともあった。これは前号表紙に掲載した写真の連續をなすもの。円盤を追いかけてたために下方の森林地帯がボケている。これは動く列車を追って撮影すると後方の風景が流れて写るのと同じ原理。

ある重要人物から聞いた話だが、日本人の宇宙開発関係コンサルタントをしておられるM氏が、昨年所用あつてアメリカのNASA（米航空宇宙局）を訪れた際、そこに秘蔵してあるアポロ計画関係の月面写真を大量にみる機会を得た。これらの写真類は一九六〇年代の終わりから七〇年代初頭にかけて実施されたアメリカの月探索有人宇宙飛行で月に到達したアポロ宇宙船から月面を撮影したものである。

写真は数ランクに分けてあり、A、Bあたりはどうでもよいようなもので、

Cランクぐらいになると奇妙な物体が月面に見られる写真、Dランクになると驚異的な光景を示す極秘の写真であるという。M氏が見たものは、なんと月面世界に別な惑星から来た大母船や円盤が着陸している、この世のものとも思えぬ物凄い写真類で、驚愕した氏はそれ以来心境に大変化を起こし、それまで信じていなかつたUFOの実在を認識し、精神的な面までも大きく変化したということだった。

こうした写真類はNASAの高級将校とコネがあれば見せてもらえるもの

卷頭言 眞実と隠蔽



年代の終わりから七〇年代初頭にかけて実施されたアメリカの月探索有人宇宙飛行で月に到達したアポロ宇宙船から月面を撮影したものである。

写真は数ランクに分けてあり、A、Bあたりはどうでもよいようなもので、

Cランクぐらいになると奇妙な物体が月面に見られる写真、Dランクになると驚異的な光景を示す極秘の写真であるという。M氏が見たものは、なんと月面世界に別な惑星から来た大母船や円盤が着陸している、この世のものとも思えぬ物凄い写真類で、驚愕した氏はそれ以来心境に大変化を起こし、それまで信じていなかつたUFOの実在を認識し、精神的な面までも大きく変化したということだった。

こうした写真類はNASAの高級将校とコネがあれば見せてもらえるもの

らしく、アポロ計画極秘の写真類を見た日本人は他にもいるらしい。編者はその重要人物を通じてM氏に会い、詳細を聴取しようと企画していたが、M氏が体験の公開を拒絶しているために会見はまだ実現していない。

当然のことながら、そのような極秘の写真が存在することを公表しようものなら、たちまちM氏はオーソドックスの学界から猛反撃を被り、下手をすると職業を失いかねない。したがつて写真類を見た他の日本人もすべて黙秘していると思われる。

NASAが月ばかりか別な惑星に関する凄い情報をすべて隠蔽しているという事実は、ダニエル・ロス著『UFO—宇宙からの完全な証拠』(中央アート出版社刊)で明らかにされているが、M氏の件はまさにそれを裏付ける有力な傍証である。ということはアダムスキーの言う月面の異星人基地の存在も確証されることになる。しかもこれはUFOを全く信じていなかつた日本人科学者によるのだ。

だからNASAの隠蔽策は正しかつたのだと編者はこの頃思うようになつた。世界の人間がもつと宇宙に目を向けて対宇宙意識を発展させ、自己の卑小な存在感を希薄にして、宇宙との一体性の方向に覚醒するようになるまでは、別な惑星群の大文明の存在を隠蔽しておくほうがよいだろう。隠蔽とは必ずしも悪徳ではない。

NASAを信じよう。そして全人類による宇宙時代の幕明けが来世紀に始まるふとを確信したい。そのような根拠はあるのだ。具体的に言えば二〇二〇年ないし三〇年頃には別な惑星群の大文明が地球人に恐怖感なしに受け入れられるようになり、異星人との交流が行なわれるようになるだろう。その頃にはアダムスキーや二〇世紀最大の偉人として世界的に浮上するだろうし、日本人秋山眞人氏の名も伝播するだろう。

しかし最重要なのは個々の人間がアダムスキーやの言う「宇宙の意識（宇宙の創造パワーと英知）」の存在を認識し、限りなくそれに接近することにあるようだ。来世紀は人類がそのことに気づくようになるだろう。

アダムスキーや否定派が何を言おうと、事実はあくまでも事実として存在し、偉かりか我々の太陽系の別な惑星群に偉大な文明が存在する事実も、たぶん來世紀になれば日常茶飯的な知識となつて、地球人の対宇宙意識も大きく変化するだろう。

ビバリー・ヒルズでティファニーが開店した日、日本人が二〇〇人も集まつて物笑いのタネになつたといふ。しかし悲観的の想念を起こさないのが宇宙哲学による重要な生き方だ。建設的な良い面のみを求めて「すべてが良い」というpositive thinking（積極思考またはプラス思考）で良き想念波動を放射するならば、それは必ず周囲に良き影響をもたらすだろう。この姿勢を強化し続けて人間の心に明るい希望の光をともさせるようにながら大混乱に陥るだろう。これはソ連の崩壊のそれどころではなく、世界中がハチの巣をつづいたような騒ぎになることは目に見えている。

だからNASAの隠蔽策は正しかつたのだと編者はこの頃思うようになつた。世界の人間がもつと宇宙に目を向けて対宇宙意識を発展させ、自己の卑小な存在感を希薄にして、宇宙との一体性の方向に覚醒するようになるまでは、別な惑星群の大文明の存在を隠蔽しておくほうがよいだろう。隠蔽とは必ずしも悪徳ではない。

NASAを信じよう。そして全人類による宇宙時代の幕明けが来世紀に始まるふとを確信したい。そのような根拠はあるのだ。具体的に言えば二〇二〇年ないし三〇年頃には別な惑星群の大文明が地球人に恐怖感なしに受け入れられるようになり、異星人との交流が行なわれるようになるだろう。その頃にはアダムスキーや二〇世紀最大の偉人として世界的に浮上するだろうし、日本人秋山眞人氏の名も伝播するだろう。

しかし最重要なのは個々の人間がアダムスキーやの言う「宇宙の意識（宇宙の創造パワーと英知）」の存在を認識し、限りなくそれに接近することにあるようだ。来世紀は人類がそのことに気づくようになるだろう。

(久)

A Gigantic Space Ship Appears Over Desert Center, California!

日本GAP第五次現地調査報告

巨大宇宙船、デザートセンター出現!

今年一月下旬、米カリリフォルニア州デザートセンターを訪れた日本GAP第五次調査団は、二七日午後、巨大な葉巻型物体が上空に出現して飛翔するのを約三分間目撃、驚喜と感動の声が大砂漠に広がった。この他にもしばしばUFOが出現し、帰国途中、海上に展開した不思議な現象を飛行機の窓から全員目撃、異様な興奮に包まれた。以下は久保田八郎、篠芳史、松村芳之、田中淳、加藤純一による報告である。

①久保田八郎

すでに何度も本誌に記事を掲載したとおり、日本GAP本部は一九八八年一一月に第一回デザートセンター調査を実施して以来、昨年まで四回に渡つてこの調査を行っている。

デザートセンターというのは一九五二年一月二〇日、ジョージ・アダムスキーが、この砂漠地帯で金星のスカウトシップ（円盤）から降り立つた金星人とコンタクトした場所として知ら

スから約四〇〇キロのカリリフォルニア州南部のモハービ砂漠の一角で、アリゾナ州に近い辺鄙な土地である。

アダムスキーキー、金星人に会つ

一行はデザートセンターの中心部からパーカー街道を一マイルほど進行して下車し、ここで休憩中、上空に巨大な母船が出現するのを目撃、直ちにアダムスキーキーは助手のルーシー・マクギニスの運転する車でアル・ベイリーとともに半マイルほど元の方向へ戻り、そのまま道路から砂漠地帯へ入りこんで停車した。

すると前方半マイルの高い岩山の馬の鞍状の所に一機の円盤がいるのが見えた。アダムスキーキーは携行した六インチ反射望遠鏡に手札判カメラを装着してそれを撮影した。

詳細な経緯は右の書を参照されるとよいが、簡単に述べると、今を去る四〇年前、アダムスキーキーはUFO観測を目的として六人の同行者とともにこの大砂漠を訪れた。ここはロサンゼル

したあと、前方約四分の一マイルの谷の所に一人の人間がいて、彼を手招きした。ゆっくりと接近して行ったところ、相手はスキーブに似た特殊な服を着た男で、英語が話せないらしく、手真似でいろいろと話しかけてきた。

アダムスキーキーはすぐに相手が別な惑星から来た人間であることを悟つて、驚喜しながらやはり手真似とテレパシーで相手と会話を交わした。その内容はきわめて興味深いものだが、詳細は前記の邦訳版に出ている。

約一時間話を続けた後、相手は地面にわざと両足の靴の跡をつけた。靴の底に刻まれている特殊な図形が砂地に残つたのを、同行者の一人、ジョージ・ウイリアムソン博士が石膏にとつた。

アダムスキーキーと金星人の二人が会話を交なつてゐる光景は、遠方から双眼鏡で観察していたアリス・ウェルズ女史がスケッチした。このスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベツがアダ

ムスキーハの助言をもとに油絵を描いた。

いずれの絵も私は現物をビスターのアダムスキーハの家で見たことがある。それは一九七五年一一月で、当時健在だったウェルズ女史が見せてくれた。

このとき私はオーシャンサイドに滞在して三日間ビスターへ通い、アダムスキーハ問題について徹底的に女史から聞いた。その結果、アダムスキーハの体験が真実そのものであることを知つたのである。このときのウェルズ女史との対談も新アダムスキーハ全集第八巻『UFO・人間・宇宙』に掲載してある。

世界名地に出現したアダムスキーハ型UFO

さて、そのデザートセンターを私達が毎年のように調査したのは、アダムスキーハが金星人とコンタクトしたという現場を検証して、彼の体験の信憑性を打ち出そうという意図にもとづくものである。徹底した実証主義者の私は、現場を探索して完全な裏付けを発見することが最重要であると考えていた。

大体に彼が最初の著書を出した当時は、繽々たる非難攻撃的になつた。彼がパロマーハ山で六インチ反射望遠鏡を用いて撮影した異星の円盤や母船にしても、模型をぶら下げて撮影した偽造写真だといふのが大方の反アダムスキーハ派の言い分だつた。

しかし実際には彼が撮影した円盤や母船と全くおなじタイプのUFOが世

界各地で目撃されているし、写真にま

で撮られているのだ。たとえば、日本でも一九七四年一〇月一日、広島県尾道市の高校生・藤松和彦君がアダムスキーハ型円盤と母船の写真を撮影して衝撃を与えた。この事件も私は当時わざわざ本人宅を訪れて会見し、周囲の関係者達にもあたつて徹底的に調査したが全くの真実の出来事であった。それまで同君はアダムスキーハのことを全然知らなかつたのだ。

右山に刻まれた不思議な曲線

話をもどすと、私達の第一次調査で

は、まずコンタクト地点を突き止めることにあつた。実はそれ以前にもアメリカの或るグループの案内によつて、「ここがコンタクト地点だ」という場所へ何度も行つたことがあるのだが、それは後になつて約三〇キロも離れた違う場所であることが判明したのである。

アダムスキーハは「パークア街道を行なった」と述べているのに、その米人グループはデザートセンターの中心部をなすガソリンスタンドからいつも左折して西の道を行つてゐた。これはパークア街道とは全然違う方向なのだ。

そこでなんとかして我々自身で真実のコンタクト場所を突き止めようと思つて立ち、小人数の調査団を編成して第一回目の探索行を実施したのは一九八八年（昭和六三年）の一月である。

しかしこのときも不成功に終わつた。

一一名で現地を訪れたのだが、今度は確実にパークア街道を前進して、そぞららしい丘へ登つたけれども、特定はできなかつた。

だが岩山の低い丘へ登つたときに非常に不思議な物を発見したのである。が岩盤に刻まれていたのだ。巨大な曲線定規を用いて刻んだのかと思われるような見事な曲線を、こんな砂漠地帯の奥地の岩山に誰がつけたのだろう？

これは計算すると直徑約一〇メートルの完全な円の一部分ということになる。私は達がそこへ来ることを予知している異星人が、前夜円盤で降下し、タツチダウンして回転（自転）しながら痕跡をのこしたのだろうか。これに関する詳細な記事は本誌一〇四号に出ている。

眞実のコンタクト地点を発見

第二次調査は翌年すなわち八九年一月のこと、私は坂本貢一・茂子夫妻、篠芳史、ダニエル・ロス・パメラ夫妻の六名である。

このときは偶然とは言ひ難い何かの導きによつて眞実のコンタクト地点を発見した。アダムスキーハコンタクト時の同行目撃者の一人であるウイリアムソン博士が後に出した書物『Other Tongues-Other Flesh』の中に掲載さ

れている写真が絶大な役割を果たしたのだ。これは金星人が円盤で飛び去つたあと、砂地に残つた足跡の图形を人類学者のウ博士がしゃがみこんで石膏

にとつている場面を、同行者の一人（たぶんアル・ペイリー？）が 6×6 センチ判の二眼レフで撮つたもので、こそアダムスキーハのコンタクト地点を示すものとして貴重きわまりないものであり、またアダムスキーハの体験の眞實性を裏付ける証拠写真として最高の価値を有するものである。私がこの写真のコピーを片手でかざしながら探索するうちに全く同じ光景を示す場所に

出くわしたのだ。

その反対方向の斜面の円盤の一部が着地していた場所にアダムスキーハが立つていた写真もウ博士の本に出てゐるが、この位置も写真と照合して難なく発見した。以上が第二次調査の成果である。この詳細も本誌一〇五号に掲載されている。

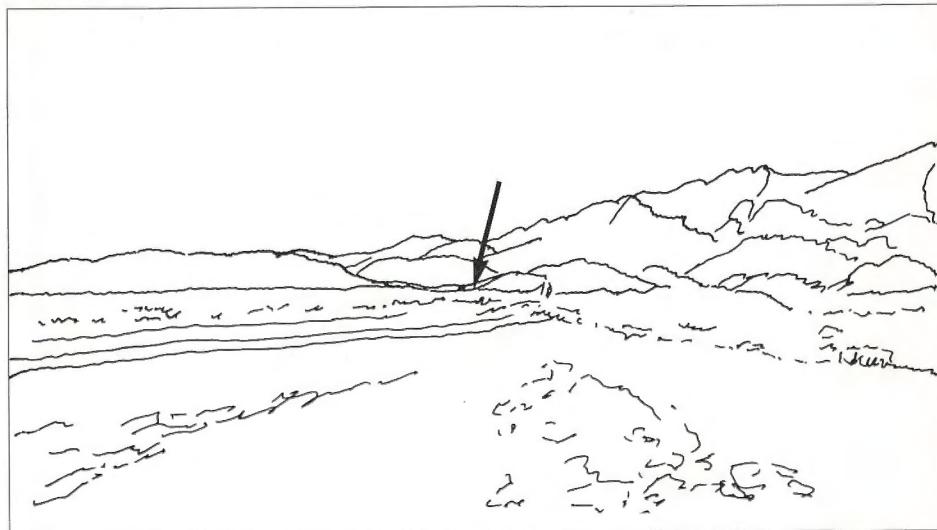
だが、アダムスキーハがコンタクト直前に撮影した『馬の鞍』状の凹部に黒い円盤が機体を半分のぞかせた写真とい一致する場所はどうしても見つからず、第三次、四次の調査でも不発に終わつたが、失望はしなかつた。私達は「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」をアダムスキーハの著書によつて發見するまでには毎年探索を��けようと役員間で話し合つてゐたのである。



●デザートセンター (Desert Center)

撮影／久保田八郎 ウィスタ 45 VX／フジノン 90 mm f8／フジクローム 100 フロ

下の図の矢印の位置がアダムスキーと金星人とのコンタクト地点。上の写真はバーカー街道の道路ぎわから撮ったもので、ここからコンタクト地点まで 590 mある。



出発時からの予感が的中

そこで今年一月にまたも第五次の調査を決行した。同行者は前記の四名である。渡米に一月末をよく選ぶのは、この時期が一年を通じて団体の旅行費用が最も安いからだ。四泊六日の米西部までの往復航空運賃とホテル代は一人分合計一二万九千円。国内旅行より安い。これが八月になると同じ旅でも約三倍の三八、九万円にはねあがる。海外旅行の費用は年間不变でないこと

を知つておく必要がある。

一月二五日に勇躍成田を出発した一行は、ロサンジェルスでダニエル・ロス氏と合流して六名となり、ホテルのホリデイ・イン・ハリウッドを二六日早朝に出発。レンタカーのプリムス七人乗りワンボックスをしばらくロス氏が運転し、郊外に出てからは田中君が交替する。『UFO—宇宙からの完全な証拠』(中央アート出版社刊)の著者であるダニエルは私の親友だから、彼がいると非常に心強い。

だが今回は出発時からかつて感じたことのない特殊なフィーリングがあつて、何かぞえらいことが発生しそうな予感めいたものがあった。そしてそのとおりになつたのである。

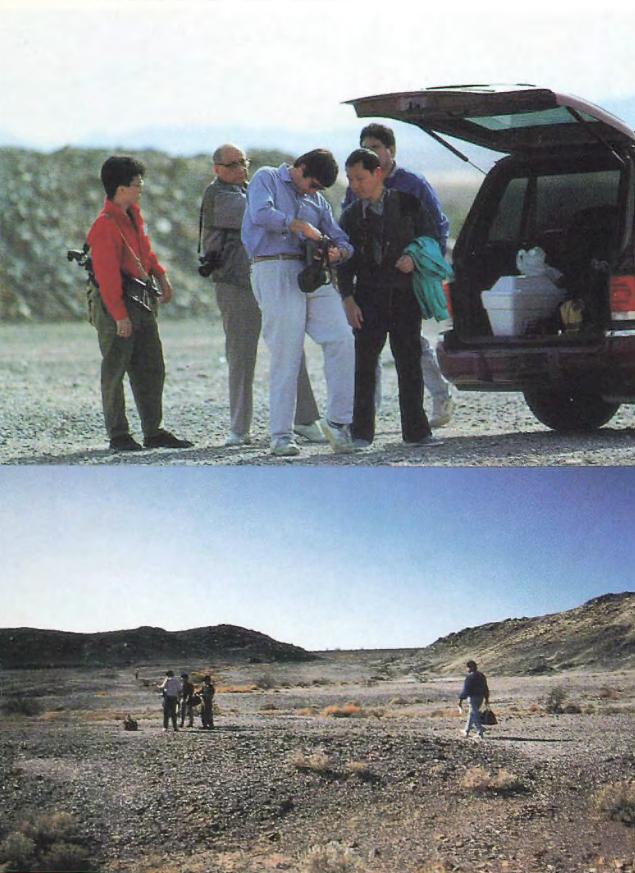
途中二度休憩して現地に着いたのは午前一時頃である。もはやわが家の庭みたいな熟知しているデザートセンター一帯だが、一応アダムスキーの記

ても東京から名古屋へ行くほどの距離があるので、かなりの長丁場だ。何度も走ったか知れない片側四車線のサンベルナルディノ・フリーウェイを時速二〇キロで疾走するのは快適だが『馬の鞍』が気になつて落ち着かない。

だが、アダムスキーの記述にはどうも腑におちない箇所がある。それは彼が最初に六インチ反射望遠鏡に手札判のイハゲー・ドレスデン・グラフレスという木製カメラを取り付けて半マイル彼方の高い岩山の窪みにいた円盤を撮影してから、次にプローニーカメラ



▲撮影中の久保田八郎 撮影／松村芳之



▼砂漠地帯の一景 撮影／松村芳之

脱落した文章と崩れた岩山？

述に従つてガソリンスタンドから一マイルほどパークー街道を行き、さらには半マイル引き返して砂漠地帯へ入った。そして直ちに全員が写真を片手に馬の鞍の探索にはいった。

を取り出してその円盤を撮影したとい
う部分だ。

彼が使用した六インチ反射望遠鏡は
彼と親交のあったパロマー天文台の職
員ジョンソン博士の母堂がアダムスキ
ーに贈つたもので、母堂はアダムスキ
ーの弟子であつた。

この望遠鏡の焦点距離は不明だが、
六インチ反射は大体に九〇〇ミリが多
用されているので、そうだと仮定して、
これに手札判カメラを取り付けたとす



▲上は一九五二年一月二〇日、アダムスキーと会見した金星人の足跡を石膏に取るウイリアムソン（右端）。下は今年一月六日、同じ場所に並んだ調査団。遠い山脈の輪郭が一致している。
左から加藤、松村、久保田、ロス、田中、篠。撮影／松村芳之



れば、三五ミリカメラに換算して約四
五〇ミリレンズを装着したのと同じに
なる。かなりの望遠だ。

ところがアダムスキーはその後に、
コダックのプロニーーカメラを取り出
して『馬の鞍』の円盤を撮影したと述
べている。このプロニーーカメラとい
うのは戦前の昔、米コダック社が製造
販売していた 6×9 センチ判のカメラ
の一つなのだろうが、当時は蛇腹付き
の組み立てカメラからボックス型に至
べていて、このプロニーーカメラとい

る多種類のものを出しておらず、ドイツ
コダック社からもテッサーレンズ付き
のコダック・リージェントという優秀
なプロニーーカメラを出していたから、
そのどれを意味するのか不明だが、レ
ンズ交換の効かない当時のプロニーー
ならばレンズは一〇五ミリの標準にき
まつっているから、そうだとすれば、こ
のカメラで半マイル彼方の馬の鞍に機
体を半分のぞかせている円盤の写真を
撮ることは不可能だ。コダックの写真
はどう見てもすぐ眼前に展開している
風景を撮つたものとしか思えない。

そうすると、最初に望遠鏡で撮つた
『馬の鞍』とそのあとプロニーーカメラ
で撮つた『馬の鞍』は別物でなければ
ならない。つまり円盤は最初、はるか
に高い岩山の馬の鞍にいて、次に眼前、前
の低い位置の別の馬の鞍へ移動したと
いうことになる。これは篠さんとロス
氏の意見でもあつた。この両人の説明
はあとで掲げるので、それを読まれた
い。

以上のようにみると、アダムスキー
の記述には何行かの脱落した箇所があ
るのではないかというのが私の持論で
あつた。つまり円盤は最初、半マイル
彼方の高い岩山の馬の鞍にいて、それ
をアダムスキーが望遠鏡で撮つた直後
に、今度はすぐ眼前の別の馬の鞍まで

▶上は金星の円盤が接地した場所に立つアダムスキー。下は同じ場所を撮影した写真。山々の輪
郭が完全に一致している。コンタクト地點より一〇〇メートル近く奥になる。

撮影／久保田八郎



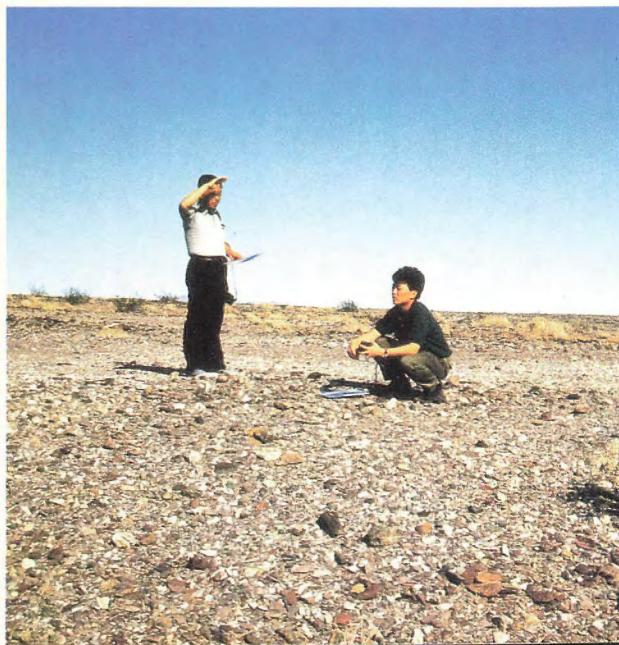
降下して停止したところをコダックで撮ったというスジにならねばならない。その所の文脈が途切れているような印象を受けるのだ。何かの都合によつて出版社が文章を削つたか、またはアダムスキーが削除したかのいずれかにちがいない、としか思えない。大体にアダムスキーのコンタクト時には想像を絶する光景が展開したらしいが、これについては彼の著書に書いてない。このことはウイリアムソンが生前そのことを私にほのめかしていた。別な情報筋によると、コンタクト時には上空に数千機の円盤が出現したと伝えられている。これは二千年前に地球でイエスと呼ばれた人が転生を経て金星人としてデザートセンターへ飛来したのであり、昔、ゴルゴタの丘で彼を最後まで救出しようとしたヨハネが同じく転生を経て今生でアダムスキーという人になつて、その二人が二千年ぶりにデザートセンターで再会したというので、それを祝福して上空に無数の円盤が出現したというのである。

六名の目撲証人達は当日の凄まじい光景を知つていながらすべて極秘にしてこの世を去つたらしい。アダムスキーが重大事を秘したのは宗教界からの攻撃を警戒したからだろう。

さて私達は日が落ちるまで懸命に探索したけれども、馬の鞍を発見できず、翌日を期して引き揚げた。といつても



▲上はコンタクト直前のアダムスキー(右)と助手のルーセー・マクギニス。下はルーセーと同じ場所と思われる位置に立つ篠(左)と加藤。徹底的な調査の結果、同時刻の日照角度とバックの地形から見て、上の写真の位置はここしかないと断定した。上の写真はアル・ベイリーが撮影。



撮影/久保田八郎

葉巻型大母船が出現!

ロサンゼルスまで引き返すわけにはゆかぬので、車で五〇分のアリゾナ州との州境にあるプライズという町で宿泊した。ここは以前にも来たので様子は分かっている。モーテルシックスの大きな部屋を借りて一人一泊二一千ドル(二七〇〇円)。東京のホテルに比べればタダみたいなものだ。その他物価の安いことは話にならない。この夜は田中君の部屋に集まつてロス氏を囲みワインを飲みながら愉快に語りあつたがムソンが生前そのことを私にほのめかしていた。これは最高に楽しいひとときだった。

翌日もデザートセンターへ飛ばす。雲一つない快晴。砂漠地帯は温かく、摄氏二十四度。日本の五月上旬の気温だ。またも手分けして馬の鞍を探索する。一同真剣に歩き回るが、なかなか見つからない。

午後一時半頃に車の所へ集まつて昼食をとる。私は腹がすかないでの水だけを飲む。大砂漠のど真ん中で碧空を

仰ぎながら大宇宙瞑想を行なうと爽快この上ない。心身ともに宇宙に溶け込めていた。ビクセンのダハブリズム付き八倍二〇ミリの小型ボケット用だが、性能は優秀である。

以前の探索では双眼鏡をバッグに入れていたが、全く使用しなかつたのに、なぜか取り出して胸にぶら下げたのが、これがまもなく絶大な威力を發揮することになった。

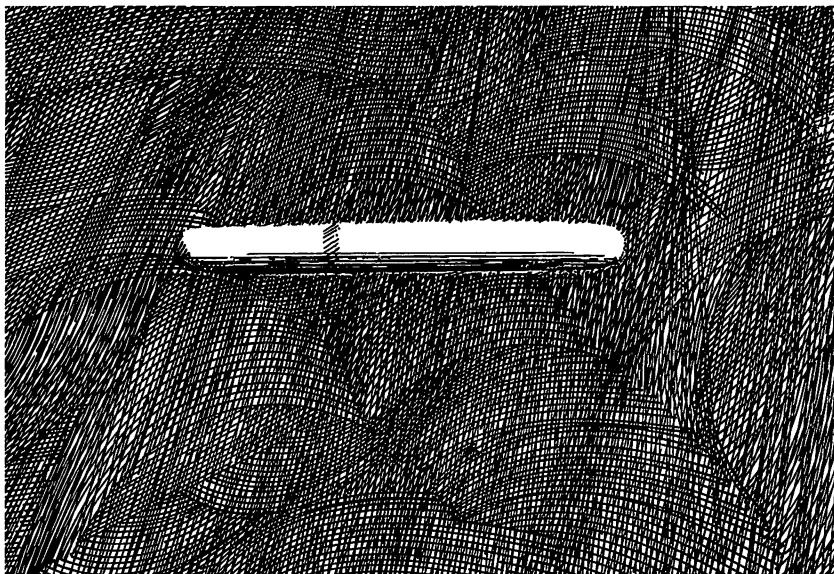
食事後、一同は探索を再開。写真片手にしきりに歩き回る。

「今回見つからねば、わしは切腹ものじや」とつぶやくと、「そのときは私が介錯しましよう」と加藤君が軽口をたたく。

「でも刀がないなあ」

「円盤から落としてくれるとよいです
ね」

こんな冗談も言えるほど一応リラッ
クスはしていた。
二時少し前に私のカメラバッグと取
り替(ファイルムホルダー)その他雑
品を入れたバッグがおいてある場所へ



▲1992年1月27日午後2時3分、デザートセンター上空に突如出現した巨大な宇宙船。左の西方から右方へ進行。久保田が8倍双眼鏡で観察した結果、翼がなく、胴体の中央より少し後方の位置に縦に黒いスジがついていた。他の4名(田中、ロス、篠、加藤)もこの物体を目撃したが、証言内容は一致している。 イラスト／久保田八郎

行つてみた。ここはアダムスキーが望遠鏡とともに座り込んでいる場所であることを私が写真により実証したので、加藤君がその場にバッグをおいていたのである。

ここには篠さんが立っていて、馬の鞍はどうもあれらしいと言ひながら、

前方の低い岩山を指して他の人達に説明している。

一見、アダムスキーの写真の丘とは

輪郭が相違するが、篠さんの説明によると、岩自体がかなり崩れたために地形が変わっているという。写真中に見える左側の黒いバンク(斜面)も雨による鉄砲水のために地形が大きく変化しているのだろうと言う。

ところで午前中はこの上空を飛行機は全く飛ばなかつたのに、午後は頻繁に戦闘機が長い白雲を吐きながら飛び交う。日課の訓練なのだろうと氣にせずにいたが、これが実は重要な意味をもつことが分かつてきた。

二時過ぎ、左方にいた加藤君が叫んだ。「あれは何ですか?」
「あつ、おかしな物体だ」一同口々に叫ぶ。
「何? 何だ? 見えないぞ。わしは目が悪いなあ」
だが、私もすぐに肉眼でキャッチし
た。急いで双眼鏡を取り上げて観測す
る。すると、丸みを帯びた白く輝く非常

に細長い物体が、仰角四五度ないし五〇度の碧空を西から東へ飛んでいるではないか! その左下の離れた位置に一機の戦闘機が飛行機雲を残しながら並行に飛んでいる。

物体には翼がない。長い胴体の中心より少し左寄りのあたりに、縦に黒いスジのようなものがついている。尾翼らしきものも見当たらない。

「やーっ、母船だ!」
一同は双眼鏡を目から離さずに騒ぐ。物体は戦闘機よりもうんと上方を飛んでいるのに、はるかに大きいから、よほど巨大な物なのだろう。

このUFOは二時三分から六分まで約三分間見えていたが、やがて右手から別なジェット機が物体の方へ飛んで来たとたんに不思議にも消えてしまつた。

ところが後に加藤君が話したところによると、昼食前に彼はこれと酷似した物体が無音で飛ぶのをもつと大きく見たという。そうするところこのUFOはすでに上空に来ていたのだろうか。

篠さんが馬の鞍はここだと説明していた頃に、田中君が「この場所がそうなら、なにとぞサインをみせて下さい」と上空にテレパシーで想念を送つたところ、まもなく物体が出現したのだという。

大体に昼頃からしきりに戦闘機が飛び交うようになつたのは、同一のUFOがたびたび上空に出没するのを付近

の空軍基地のレーダーがキヤツチしてスクランブルをかけたのではないかという気がするのだが、これは一同の意見でもあつた。ここまで戦闘機が乱舞するのはまだ事ではない。

一同は欣喜雀躍した。ついに母船が出現した！ 別な場所にいた松村君を除いて五名全員が目撃し、うち四名は双眼鏡で確認した。加藤君だけは眼視観測である。ロスさんまでが「翼がなかつた！」と興奮気味に言つていた。田中君のテレパシーに応じて出現したとすれば、私達がかたまって立つていた場所はアダムスキーが撮影した場所であり、篠さんの言うようにその場所からすぐ北方に見える低い岩山が馬の鞍と関係のある山なのだろう。この件はロスさんの写真説明を参照されたい。

馬の鞍の丘は崩れている？

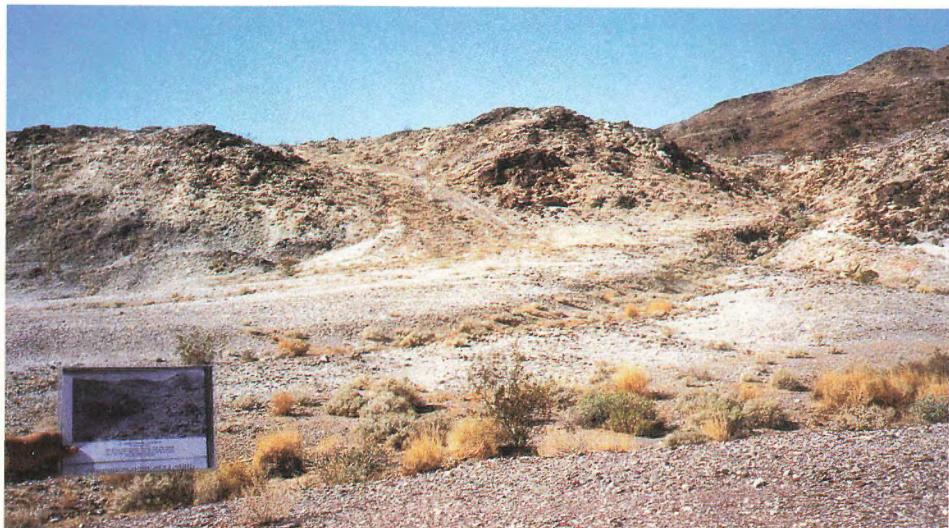
篠さんの言う馬の鞍に相当する丘は、多年何かの理由によつてかなり崩れており、アダムスキーの撮つた写真と一致する輪郭は大まかな形を残すのみという。ここは砂漠地帯といつてもアメリカのサハーラ砂漠のような美しい微細な砂の海ではなく、固い地面に石ころが散在し、あちこちに低い灌木が生えている、どうしようもない不毛地帯だ。しかもときには雨が降つて鉄砲水が出ることもあるので注意せよという

標識がどこかに出ていたのを以前見たことがあるので、あるいは四〇年間に一度重なる鉄砲水によつて地形が変化したものかもしれない。だからあちこちに小さな川の流れの跡が残つているのだ

ろう。

だがもう一つの可能性がある。それはアダムスキーが第一著を出して、これが全米で有名になつたとき、このデータセンターへ連日数千の人々が押し

▼上はアダムスキーがコンタクト直前にコダックのプロニーカメラで撮影した『馬の鞍』状の部分に、黒い円盤の機体が半分のぞいている光景。下は1月27日に撮影した写真。中央の小高い丘がかなり崩れていますと結論づけた。この撮影位置はアダムスキーが望遠鏡のそばに座っている場所と思われる位置。アダムスキーは望遠鏡のそばから立ち上がって、もう少し左前方へ歩いてからコダックカメラで撮影したと思われる。撮影／ダニエル・ロス



かけて、そのため飲食物を売る屋台店まで出たという話がある。その見物人達によつて丘が荒らされ、岩石などがひっくり返されたと考えられなくもない。そうなると丘の輪郭も変化する

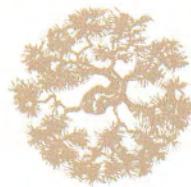
だろう。正確なコンタクト地点はウイリアムソンが著書を出すまでは誰にも分かるはずはない。手がかりはアダムスキーの第一著の馬の鞍の写真だけだ。これを手にした群衆が似たような地形の丘に登つて踏み荒らせばどうなるかは想像に難くない。

だがデザートセンターと呼ばれるこの地域、すなわち厳密にいうと、ガソリンスタンドからパーカー街道を一〇・五マイル行った所で車を降りて、そこから山側へ五九〇メートルはいった低い丘の斜面の裾の砂地が、一九五二年一月二〇日のアダムスキーと金星人の歴史的な会見地であることは絶対に間違いない。五回に渡る調査で断言できることである。

海面の不思議な現象

私達は一月二九日に予定どおりロサンゼルスからシンガポール航空機で帰途についたが、約一時間後、サンフランシスコ沖合の海上に異様な現象を発見してまたもひと騒ぎ起こした。海面に物凄く長い黒い影が映つているのだ！

当初は海中に何かの突起物があるのかと思ったが、その長い直線状の影は私達の旅客機と等速度で移動しているのである！これはかなり長時間見られた。やがて旅客機は海面の大半が白雲ではなくて細長い物体の影であり、し



▼ダニエル・ロス氏による見解 Comment by Daniel Ross

下の写真中、アダムスキーは最初①の地点にいて、ここからコダックカメラで『馬の鞍』の写真を撮った。その後②の位置に金星人が現れて手招きした。そこでアダムスキーはそこまで歩いて行って、そこで長時間テレパシーによる会話を行ない、オーソンは地面に足跡をつけた。これはあとでウイリアムソンが石膏にとった。それからオーソンとアダムスキーは④の位置の丘の裏の斜面に停止している円盤の方へ歩いて行った。円盤は丘の斜面に對してフランジの端を着けているだけで、機体の大部分は空間に浮かんでいた。 撮影／ダニエル・ロス



覆われている地域にさしかかったが、かもその長さは数十キロに及ぶものである。一体、何なのかな？謎は深まるばかりであった。高空にいる母船が特殊な方法で海面に巨大な影を拡大投影

したのだろうか。他の乗客は気づいていない。目撃したのは我々だけである。後日秋山眞人氏に写真を見せたら、針型大母船の影ではないかと言っていた。

▼サンフランシスコ沖合の海面に写った不思議な直線状の黒い影。飛行機と等速度で移動し、雲海でもしばらく黒い影が見えていた(下)。突き出ている半島はレイズ岬。 撮影/松村芳之



付記 今回の調査行にはきわめて意義深いものがあつた。全員が一致協力し

て誠実に行動し、和氣あいあいたる雰囲気のなかにも真剣な決意がみなぎっていた。想念レベルにおいて完全に一体化していたといえるだろう。

私は今回、4×5インチ判大型カメラを携行したためにカメラバッグだけで重量は一〇キロ近くになり、その他荷物類で身動きできぬ状態だったが、全員が手分けして担いでくれたために大助かりした。人間の善意と奉仕精神の尊さをあらためて実感した次第であ

る。

一方、同行の諸君は英語の重要さを痛感したと言つていた。だが一同はちこちである程度英語で用を足していながら一応勉強はしてきたらしい。必要な程度英語で用を足していだということを感じた次第。

また、UFO問題を本格的に研究するには光学機械に関する高度な知識をもち、あざやかに使いこなす技術を習得することも大切だと思う。アダムスキーも望遠鏡、カメラ等の光学機械操作の大ベテランであつたからこそ、あ

れだけの証拠写真を残すことができたのだ。ただし私は今回の母船出現時に撮影する余裕はなかつた。双眼鏡で追跡するのが精一杯だつたからだ。

そして最重要なのはテレパシーな直感力である。上空から送られるテレパシーを感知する能力は絶対に必要である。私はこれによつて数年前にコンタクト地点へ導かれたと信じている。

まだ説明したいことは山ほどあるが、紙数が尽きたので同行諸君の手記を掲げることにしよう。これは到着順に掲載したもので順不同である。

『馬の鞍』の発見 ② 節 芳史

このたびのデザートセンター第五次調査で久保田先生に同行させて頂いた

が、大変素晴らしい有意義な成果があり、私達日本GAPのメンバーが先生のご指導のもとにアダムスキーフィルム哲学を学ぶことの重要性とその誇りを痛感した。

今までの調査には毎回参加させて頂いたが、新アダムスキーフィルム『第二惑星からの地球訪問者』の巻頭に出

てくるアダムスキーフィルムになる山の「馬の鞍」状の部分にスカウトシップ(円盤)が半分見える写真と一致する場所がどうしても発見できなかつた。

今回私は大変リラックスしていたし、今年は新年になつてから充実した気分になり、一月八日の夜は心の暖まるような光体を見たので、デザートセンターでは必ず素晴らしい出来事があると確信していた。

雄大なアメリカに足を踏み入れてから二日目、デザートセンターで、「馬の鞍」の調査にはいった。まず田中淳氏と二人で『第二惑星からの地球訪問者』の記述にある砂漠の調査箇所周辺を卷尺で徹底的に実測した。それからアダムスキーフィルムの写真を手に、合致する地形を捜したが、夕方になつても発見できず、その夜はアダムスキーフィルム

のプライズに宿泊した。

翌三日目、一時過ぎにデザートセンターに到着。この時間はアダムスキーラーが撮影した時間と最も合致した時間として重要なである。まず写真の影を分析、理解し、その影と合う方角を決め、その方角を向きながら並行移動した。

すると、昨日距離測定した或るのポイントに来たとき、大変写真に似た位置に出会った。その場所は今までに何度も注目された場所であったが、山のカントンが多少違うために首をかしげながら通り過ぎていた場所である。しかし念のため他の場所を歩き調べても影が合う場所はここだけである。ダニエル・ロス氏が来て、写真と景色の両方を示し、「写真の右上の部分は遠い向こうの山で、写真の中央全体は手前の丘である。写真のフォーカス（ピント）が違う」と言った。私は片言の英語の単語をつなげながら二人で写真と実際を比較確認し、次のような結論に達した。

●アダムスキーラーが写真を撮影した時刻はほとんど同時刻である。影の方向は一致している。

正午を過ぎて昼食を済ませたあと、再度写真と景色を確認し、フレームをはずれて写真に写っていない部分の馬の鞍にそっくりな山の形を見て久保田先生がうなずいた瞬間、葉巻型大母船が出現した！一瞬、体の内部から歓喜が噴出したような感じを受けた。

真っ青で雲一つない大空に、一機のジェット機と並行に飛び巨大な物体がいる。肉眼でもはつきり見える。細長く銀色に輝く大母船であった。双眼鏡ではつきりと確認できた。もちろん翼はなかった。後にビデオカメラで録画したときの時間を見ると、二時三分から六分頃までの三分間であった。しかしビデオカメラはオートフォーカスにセットしており、青空にピントが合わぬために物体を捕らえきれなかつたが、皆の喜びに満ちた感動の声は録音されていた。

「馬の鞍」については久保田先生がいつも「ここにそれは必ずある。われわれは何か基本的なことを見逃しているのではないか」とおっしゃっていた。

地形の変化については、毎回デザートセンターを訪れるごとに微妙に変化していることが分かつた。アダムスキーラーが写真を撮影した位置を特定できると

「第二惑星から地球訪問者」の文章がすべて現地と合つてくる。大母船が現れたのは、現地すべての再確認をし、久保田先生がうなづかれた瞬間であったことを強調したい。田中淳氏は「この位置が正しければサインをお願いします」と想を送っていたとのこと。

この大母船出現は久保田先生の「信念と希望と忍耐」の大成果であり、その祝福に一緒に頂いていると思うと、その瞬間、大感動した。

ならば、いつか必ず報われる所以である。

認されている)

以上の意見はロス氏と私の二人共一致した。早速久保田先生に報告し、先生も納得された。

生も納得された。

が約一〇分間継続してから二時二八分、進行方向の海上に雲が一面に立ちこめて、黒い棒は見えなくなつたが、数分後、全く同じ大きさの黒い影が今度は雲海にシルエットとして再び現れた。飛行機の飛行速度から推測して計算した結果、長い影は約二〇キロ以上もあり、幅は二〇〇メートルぐらいと思われた。

馬の鞍について久保田先生がいつも「ここにそれは必ずある。われわれは何か基本的なことを見逃しているのではないか」とおっしゃっていた。

私はその時出現した母船と同じだろうと思われる物体を四〇分ほど前に目撃していた。原著の写真の中で円盤着陸跡に立つてアダムスキーラーの背後の山の上空である。二時に一行が目撃したのと同様白い胴体に黒い縦線が入っている。かなり大きく見えたので今でも強く印象に残っている。近くにいた松村氏を呼ぶともう見あたらない。その間ほんの数秒。北東からやつてきたように思つた。松村氏に話すと氏も私は別な場所で同じような体験をしたとのこと。とにかく二時には皆で確認出来たので大きな確信と喜びをわかつ合えた瞬間でもあつた。

また、今回の調査では馬の鞍状のボ

イントと同時にアダムスキーラー氏が望遠鏡と共に座つているポイントも確認出

來た。これはこの地にこの調査だけで

五度も足を運ばれた久保田先生の集大成とも言うべき発見であると思う。先

アダムスキーフィルムの応用

③ 加藤純一

一月二七日快晴。デザートセンター二日目。二時三分頃のこと。最後の謎

解

であつた馬の鞍状の写真を写せるポイントを探していた一行の上空に母船が現れた。そのポイントについてはそれまで半信半疑であった私は彼らの声がなんとなく聞こえたようと思えた。

「よく見つけましたね！」と。
「馬の鞍」については久保田先生がいつも「ここにそれは必ずある。われわれは何か基本的なことを見逃しているのではないか」とおっしゃっていた。

地形の変化については、毎回デザートセンターを訪れるごとに微妙に変化していることが分かつた。アダムスキーラーが写真を撮影した位置を特定できると

「第二惑星から地球訪問者」の文章がすべて現地と合つてくる。大母船が現

れたのは、現地すべての再確認をし、久保田先生がうなづかれた瞬間であつたことを強調したい。田中淳氏は「この位置が正しければサインをお願いします」と想を送っていたとのこと。

この大母船出現は久保田先生の「信念

と希望と忍耐」の大成果であり、その

祝福に一緒に頂いていると思う

と、その瞬間、大感動した。

決してあきらめないで追求を続ける

ならば、いつか必ず報われる所以である。

生、本当におつかれ様でした。一日中の砂漠の中を重いカメラを持って歩くのは体力のいることである。私も実感したし、逆にいつか一人でも来てみたいとも思った。

さて、この日三度目の目撃はロサンゼルスへ向けて帰る車中のこと。眠つていた私が起きて前方を見る。オレンジ色の光体が出現していた。五時頃のこと。高速で進行中だが結構良く見える。三〇分ほど前にも出現していたらしい。

夜は一行の最高の笑顔を見ることが出来た。先生も五回の調査中あんな母船が出現したのはこれがはじめてだとおっしゃっていた。明けて二八日ロスと別れる。名前を覚えて下さつてありがとうと英語で話したかったが言葉が出ない。力強く握手を交わして笑顔で見送った。その日は一日観光。例のクラークホテルへ行つたりした。カラツとした気候が私の肌に合う。

二九日、一行はロス空港へ。一〇時二〇分頃、町の上空にグレーのボールを二つ並べたような物体を発見。松村氏に知らせるがもう見えなくなつていだ。バスとは反対方向に飛んでいた。どうも私はタイミングを計るのがへたらしく飛行機が無事飛び立ち私は一時間ほど眠つていた。その間私は夢を見ていた。私の横に黒いUFOが一機飛んでついてきているという内容である。起きてみて不思議に思い窓から外を眺

めるとそれらしき物体は見あたらない。アメリカ大陸とサンフランシスコの海が美しく見える。

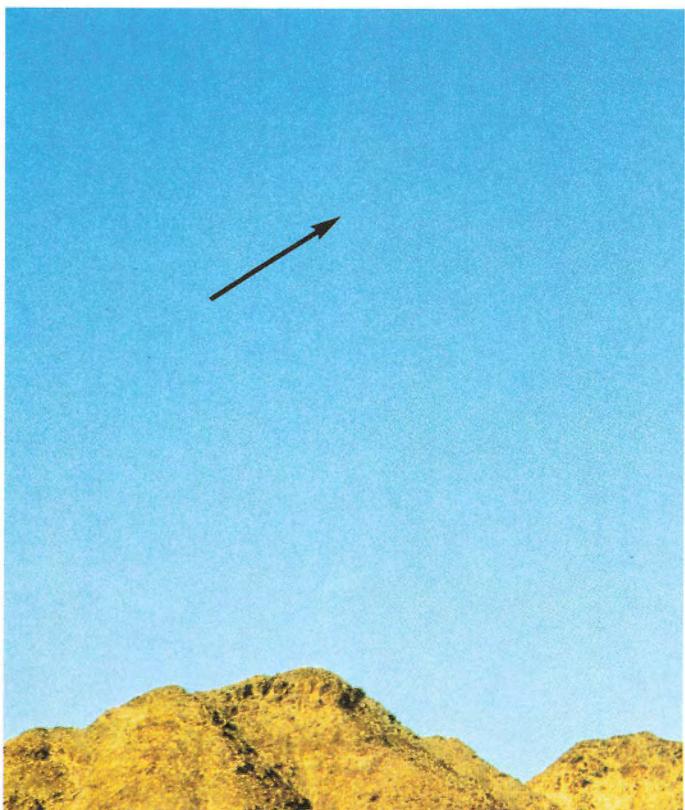
ふと海上を見ると長細いはつきりとした影がぴつたりと並行してどこまでもついてきている。時計を見ると二時一〇分。松村氏も私とは別に早くから気付いていたとのこと。どうやら母船の影らしいということになつてよく見てみると確かに先端部分が少し細くなっている。厚い雲の中でも見えている影だが三時三三分頃、先端部がオレンジ色に輝いてからスースと見えなくなつていった。「私たちはもう帰りますよ」というサインだったのだろうか、その後東京に着くまで誰も目撃していない。

さて以上が私の体験してきた事柄であるが、UFOの目撃の背後には先生のもとで学んでいるアダムスキーフィルの応用が重要な位置を占めている。

上空のことばかり気にしようとする心と、目的を忠実に果たせという二つの声を聞きながらデザートセンターを歩き、それでも心をうまくコントロールしようと努めた結果、より大きな成果を得られたのだと確信している。

今、こうして今回の調査を思い浮かべると私の意識と肉体は日本という一国家から地球レベルへと広い視点と体験をバランス良く吸収し歩み続けていよう気がしてならない。そして私は、これから日本人としてまた地球上

として何を為すべきか、どうあるべきかを考えさせられた。あのきらめく母船の人々のように私もつねに前進しゆこうと思っている。



▲デザートセンター上空の大宇宙船。焦点三五ミリのコンパクトカメラのため、物体は小さな白点にしか写らなかつた。矢印がそれを示す。撮影／加藤純一



海面の不思議な光景

④松村芳之

今回の調査行での収穫は、久保田先生にとつても、同行の私達にとつても大豊作であった。すべてが成るべくして成了た。先生の信念と努力の賜物である。参加させて頂き感謝致します。

私は一九八八年一一月の第一次の調査行に参加し、今回で二回目である。前回は円盤がタッチダウンしてつけたと思われる不思議な曲線を目撃し驚愕した。今回はなんとそれを凌ぐ出来事がおきてしまった。それにしても報告したい事が沢山ありすぎる。

夢想だにしなかつた出来事は、調査行最終日の成田に帰る機中で起きた。シンガポールエアライン機がロサンゼルス空港を定刻に飛び立ち、私達は帰途についた。私達の座席は後部右側の禁煙席で、六一のH通路側は久保田先生。右隣が篠さん。また右隣で窓側に淳さん。その前の座席窓側が加藤君。加藤君の左隣で篠さんの前が私。私の左隣の人は出発してまもなく他の席に移り空席となつた。

四〇分程してから的事。もう少しの篠さんが私の肩をトントンと叩き窓の外を指して「あれがゴールデンゲートブリッジだよ」と教えてくれた。見るところどう窓の真ん中にゴールデンゲートブリッジが見え、上のサンフラン

シスコ湾に浮かぶ島や、下半分の太平洋がライトブルーからコバルトブルーに海面の色が扇状に変わっているところなどがとても奇麗である。

そこで傍らに準備しておいたカメラで四カット、構図を変えながら撮影。そしてふと下の海面に目を移すと、どのように表現すればよいのか一瞬考えてしまうもの?があつたのである。それは黒く飛行機雲の様にとても長く、先端部分は私達の機の右主翼ななめ下にある。しかも後ろ部分が窓枠からはみでてまったく見えない。とてつもなく長いものである。すぐさま隣で寝ている加藤君を起こし「あれ、なんだろう?」と物体を指し、「一緒に観察してみる。始めはテトラポットなどで出来た岩礁なのかと思っていた。しかし遠方のビークラインがどんどん遠ざかって行くのに、それは私達の機と同じスピードでまったく平行に移動しているではないか! 先端部分はやはり右主翼なめ下。後ろの篠さんと淳さんに淳さん。その後の座席窓側が加藤君。伝え、篠さんは久保田先生に伝える。「あれはまさしく私達の待ち望んでいたものなのではないか!」という思いと胸の高鳴りを何とか押さえながら、

自分の思い至る否定事項を当てはめようと皆が口々につぶやく。「岩礁でない」とすれば私達の飛行機の影なのだろうか?」「しかし機影だとすれば胴体と十字になる翼の影がつくはず、こんなに長いはずもない」「潜水艦なのだろう」とともに嬉しさが込み上げてくる。

進路方向より雲海が迫ってきた。これまでこの不思議物体の謎が一つ解ける。雲の下のものなのか、上のものなのかである。ちょうど雲にさしかかり、それとともに影は消えていった様に見えた。ジーツと影があるであります。斜めに目を凝らす。「見えた!」影が薄く見え始めた。下の物体ではなかつたのだ。そうなると答えは限りなく「母船の影」みでてまったく見えない。とてつもなに見えます。スペースブレーザー側の操作による映像となる。絶対にこれしかないことが確信。興奮が醒めやらない。影は雲海に入つてから、約七分程で見えなくなつた。加藤君が言うには消える時には頭の部分の両サイドがオレンジ色に光つたとい。目撃は午後二時二十五分頃からで約二〇分位。気付いていたのは私達だけの様である。この間なんとも形容しがたい温かみのある振動数の高い波動に包まれていた気がする。感謝の気持ちを放射し、このフィーリングを忘れないようにしまい込む。今後使用するキーナンバーに思えたからである。

後日、写真が出来上がりチックスする。すると三二カットに影が認められた。地図と照らし合わせ長さを測ると二〇km以上あることが解る。速度はジャンボと同じ速九〇〇km/h一〇〇〇km前後と思われる。

正解だった調査行

⑤田中 淳

「デザートセンターでお待ちしていますよ!」とスペースブレーザーのAさん。「ピンポン(正解)ですよ!」とスペースブレーザーのBさん。

「まだ信じられませんか!」とスペースブレーザーのCさん。

AさんBさんCさんは同じ方かも知れませんが、今回のデザートセンター訪問には少なくともスペースブレーザーの方々からの暖かい三つのメッセージがあったような気がします。

今回のデザートセンター訪問では私は強い味方が居りました。水戸黄門の印籠のように安心感を与えてくれる大きな存在の久保田先生(デザートセンターへは日本人として十数回の最多訪問者)、堂々の参加五回目パーソナルの篠さん、だいじなところのまとめ役松村さん(二回目)、いろいろな意味で鋭い加藤君(二回目)、日本酒の大好きなロスさん達です。

自分(二回目)を加え総勢六名が今回のメンバーです。

アメリカ人は本当にリラックスの名�다고隨所で感じさせられましたが、私達一行もアメリカ人に負けず劣らず本当にリラックスした雰囲気に終始包

まれており、しかも今回の訪問はリトル東京で食べたあのビッグなかつ丼のようないい盛り沢山の成果がありました。

また今回の訪問にはアベリティア夫人
がありました。

月二〇日)の午後七時三〇分頃、京葉
高速道路上の走っている車の中から前
方方向に久保田先生が光り輝く謎の光
体を発見。そしてその光体が何なのかな
と話をしているうちにパッと消えてし
まつたのです。

「今回の訪問の日時が迫っていたので、「デザートセンターでお待ちしていま
すよ!」というサインとも考えられま
すよね。」

今回確認された二つの地点（通称「馬の鞍」）の写真的地点とその写真を撮ったと思われる地点は一月二七日現地では二日目に、様々な条件の合致から

る一般的な理解は「UFOの写真でしょ
る馬の鞍のあの写真にソックリの地占
があるはずだ」ということでしたね。
しかし現地で本文と写真を交互に見比
べて見ると、あることに気づくのです。
UFOが写っているあの地形は馬の
鞍の形にあまり似ていないと思いませ
んか。似ていないとすると、何故アダ
ムスキーフ氏は馬の鞍と呼んだのでしょ
うか。

いて、私なりに考えられる数点のポイントがあります。その第一は本文（第二惑星からの地球訪問者）の次の記述上の解釈にあります。

「空中の一つの閃光に注意を引かれた。するとほとんど同時に一機の美しい小型飛行物体が、山の二つの峰のあいだのサドル（馬の鞍の部分）の中で浮かんでいるように見えて、私から八〇〇メートル離れた谷間に、無音のまま落ち着こうとしているようと思われた」アダムスキー氏が写真を撮つたのはこの後である。

「素早く私はそれを望遠鏡のファインダー内でとらえてできるだけ早く七枚のフィルムに撮影した。

次にブローニー判カメラで何が撮れるかやつてみようと思つた。最初の写真（口絵参照）を写したとき、円盤が強くきらめくとともに動いて、最初に来たサドル部の上空に消えてゆくのを見た」

確認されたあの写真を撮つた地点（この時点ではまだ確認されていない）から、写真のUFOが写つている地形を良く見ると、その右側に馬の鞍状の地形があるのに気付くのです。この地形のほうが馬の鞍と呼ぶにふさわしいほど馬の鞍の形をしているのです。あの写真を良く見て下さい。写真の右側の方にボケて写つている山があるのに気付かれると思ひます。馬の鞍の形に似ていると思ひませんか。

そして本文からは写真に写っているUFOは馬の鞍状の地形の上に居たときには写つたものではないと解釈する。

とも出来ますね。

ル」という言葉にはアタムスキーハの考え方の嗜好があるようです。

というのもロス氏がテサートセンターハウスの車の中で、アダムスキード氏

の写つている写真を指しながら「カウボーイブーム」と一言。写真を良く見ると、アダムスキーリーがカウボーイブ

「ツをはいて写つてあるのです（本誌一六号）。たしかカウボーイハットをかぶつてゐるアダムスキーハー氏の写真もありましたよね。

「カウボーイが好きなんだよ」と鋭い一言。

また先生に馬の鞍の言葉の由来を尋ねたところ、先生は原文で「サドル」と書いてあつたので「馬の鞍」と訳されたとのこと。さらに山の尾根の形状をサドルと英語では言うのですかと尋ねたところ、そのようなことはないとのこと。

ということは、「サドル」とアダムスキー氏が書こうと思うにはサドルに似た地形がなければならないのではないでしようか。

そこで「サドル」をコンタクト地点の印にしたほうが良いとアダムスキーリー氏が考えたのではないのでしょうか。他にもまだまだポイントがありますが、その中で最後の決定打。



▲『第2惑星からの地球訪問者』144頁に述べてあるロサンゼルスのホテルというの、ビル・ストリートにあるこのホテルを意味する。内部はすでに解体されているが、外観は昔のおもかけを残している。

撮影／久保田八郎（1月28日）

山の峰々をハイスピードで通過するのを目撃。

そして再度思いを巡らせながら「今回だけはゼイタクを言わせて下さい」「白か黒を付けて下さい」「ここでいいんですか？」とあの地形を見ながら強く思つたんですね。

そしたら、その時（午後二時過ぎ）丁度、加藤君が母船らしき細長い飛行物体を発見。久保田先生、篠さんと共にその物体を双眼鏡で観察、「物体には翼がない」とおもわず興奮。ロスさんも「ノーウィングズ」と大きな声。これは「ピンポン（正解）ですよ！」とスペースピープルのBさんからのメッセージだと思えますよね。

またあの写真の裏焼きの可能性はない様ですね。同じ時間帯での写真の影の位置から確認されました。（篠さんが確認）

また今回の地点から見た地形は写真とそつくりとは言えないのですが、オーロンが立つていた低い丘の反対側の丘に篠さんと一緒に登つてみて、その地形の浸食の進行が激しいのが良くわかりました。数年単位でもその違いがハッキリ分かるぐらいですから、四〇年という年月でのその違いは大きいですよね。

馬の鞍の写真の右背後の尾根の稜線

今回確認された写真を撮ったと思われる地点について、久保田先生はじめその場の全員が「ここなのか」「ここでないのか」と思いを巡らしていた時、

突然、米空軍だと思われる戦闘機が三機「何かに対してのスクランブル（緊急発進）かな？」と思われる様に、アコバット飛行で「馬の鞍」の後ろの

つけられなかつたのがチョッピリ残念でした。

東京へ向かう帰りの飛行機の中でもすごい光景が見られました。それは、あの地点で見た母船について「もう少し近距離に見えればもっと確かになのになあ」と思った矢先に、松村さんがサンフランシスコのゴールデンゲートブリッジの手前の海面に非常に長い影を発見。それも飛行機と平行して移動しているように見える。篠さんが機内から目測してみると約二〇km位あるとのこと。その影はその後一時間以上も見えており、しかもその影が消える最後には、その影全体が太くなり、影の先が母船の形そつくりにやや細くなつて見えた。しかも加藤君がその影の先がピカッと光つた所を目撃したそうである。

「まだ信じられませんか！」とスペースピープルのCさんからのダメ押しのメッセージとしか思えない出来事でした。

今回、四〇年前のあの歴史的なコンタクトのドラマのシーンを本文の記述通りに思い浮かべながら、そのシーンに自分が浸つているように思えて、同じ位置同じ様な状況で時間を過ごすことが出来たことが本当に心地良かつたと思っています。

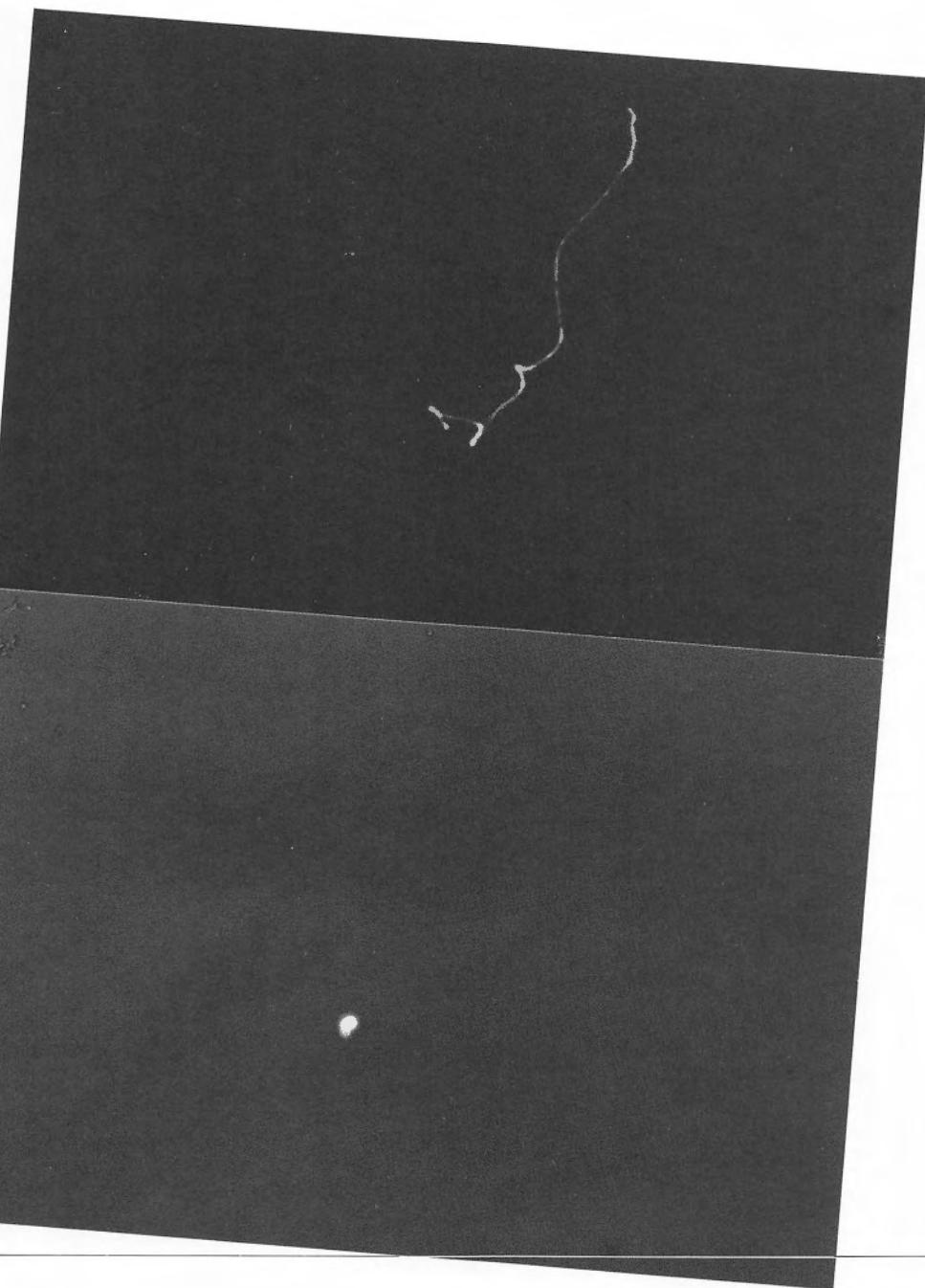
UFO Over Nara / Photo by Tatsuo Yamaoka

奈良市上空のUFO

●1992年11月24日夜11:10から11:40にかけて、奈良市神殿町上空に出現した光体を同町に住む山岡龍夫氏が自宅ベランダから連続4枚撮影に成功。下の写真はその内の2枚。秋山眞人氏の鑑定によると本物のUFOだという。原画はカラー。

コンタックス139クオーツ／タムロン200～500ミリ F5.6ズーム／上はフジカラーSHG1600、下は同400／三脚固定。レリーズ使用／絞り開放。シャッタースピードオート。

〈報告=石田順次〉



Space People Working to Save the Earth

by Makoto Akiyama

地球救済活動を続ける異星人

★秋山眞人

連載第一回

前号のこの記事は最後が時間切れのため尻切れトングになつた。このため続きを望む声が多いため、あらためて秋山氏との座談会を開催して続編を掲載した。日時は本年三月一〇日、場所は都内新宿の喫茶店『ルノアール』貸し会議室、聞き手は日本GAP会長久保田八郎と東京本部役員の内、八名（篠芳史、松村芳之、田中淳、岡部智成、加藤純一、安藤澄雄、越崎裕子、小宮明子）。

久保田 前号の最後のお話で宇宙船の重力場機関とエネルギー源についてお話を途切れましたので、その続きをお願いします。

秋山 基本的に言つて異星人の動力機関は、もともと空間に内在しているエネルギーを取り出さんです。ある種のズレを生じさせて、そこからエネルギーを取り出すという非常に特殊な、まだ人が開発していない技術を持ついるわけです。その技術を使うと燃料庫がカラになるという形の物から、かなり飛躍した長距離の惑星間飛行が可能になります。

基本的には母船から始まつて司令機、

小型円盤といういくつかの段階的な編隊構成になつています。彼らはこれを非常に効率的に駆使して惑星間飛行を行なつてゐるわけです。

私達の地球にしても何百年前から動き続けていますし、太陽にしても非常に長いあいだ燃え続けています。この自然界に存在する原理をそのまま取り出して活用できれば、宇宙船の製作は可能になります。

ただ我々は地上でエネルギー問題を解決してきましたので、地上におけるエネルギーの概念の枠の中でずっと宇宙問題にしづら資源問題にしづら論じてきています。ですから何かをやるにあつて確認したのは、ちょうどスズメバ

たつて、その可能性が有限であるとう所から発生した思想というものは、有限だと最初から思つてしまつていてあります。ところが異星人のエネルギー問題といつるのは最初から非常に広く宇宙的視野の中で開発が進められたために進化したのです。

ですから私がコンタクトした異星人というのは基本的には我々の文化と比較して大体四〇〇〇年ぐらいの差があります。その四〇〇〇年ぐらいの差のあいだに彼らはいくつかの概念的な限界を超えて、非常に広い意味でのエネルギー問題をクリアーしていると思います。

JETの推進原理

久保田 異星人の宇宙船の推進原理について本当のところはどうですか。

秋山 私自身が実際に（宇宙船に乗つて）確認したのは、ちょうどスズメバ

チの巣のようにハチの巣状の構造物がありましたね。スズメバチの巣というのは、ご覧になつた方はお分かりになるとと思いますが、六角状の短いパイプが沢山組み合わされたような板状の物がいくつも重なつてゐるわけです。それが一つの円形のコモのような物の中に入っているんです。宇宙船の動力機関の中枢になつている部分といふのはそれと同じような構造をしているんですね。

その上部にはコントロールパネルがあり、司令室があつて、そこで作動のスイッチを入れるのですが、スイッチが入つた瞬間にその六角形のパイプの中心部から光り始めて軽い振動音が聞こえます。やはりそれは何か空間からエネルギーを取り出しているのだとう話を聞きましたが、私は物理系の人間ではないのですから詳しい事は分かりませんけれども、基本的には磁気を利用しています。

磁気のなかにも単極で存在する磁気があると彼らは言つてゐるんです。磁気というのはNとSがくつつきあってバランスをとると思われてゐるんですが、しかし単極で存在する磁気があるというわけです。彼らはそれをその装置によつて空間から取り出すことに対しに功しているんです。その装置が作動し始めると、円盤の底部の方にその磁気の振動が伝わつて、その振動をコイルに還元することによって、簡単な言い



▲秋山眞人氏

撮影/久保田八郎

方をしますと、円盤全体が非常に微弱な共鳴を起こすんです。この共鳴現象によって飛ぶのだということです。

原理的には短時間で物凄いスピードを瞬間に出します。それと非常に加速した状態と停止した状態を短時間で何度もくり返すことによって、非常に遠い距離でも簡単に飛ぶことができるというわけです。ですから工学系の専門の方がおられたらその原理に関して何かのヒントがつかめるかもしれません。非常に高度なテクニックを応用していることは事実です。

久保田 彼らの宇宙船のスピードは光速を超えることができますか。

秋山 できると思います。ただし光の速度や性質などに関する彼らの観察や

認識は地球人の遠く及ぶところではあります。ですから別な何かの意味を瞬間に出します。それと非常に加速した状態と停止した状態を短時間で何度もくり返すことによって、非常に

遠い距離でも簡単に飛ぶことができるというわけです。ですから工学系の専門の方があられたらその原理に関して何かのヒントがつかめるかもしれません。

UFOといわれる宇宙船の飛行原理については、光の性質自体に非常に重要なカギがあるのだそうで、彼らは光の性質をうまく利用しているんです。

ですから光に関する観察や研究を進めることによって解明される部分が沢山あるのだと彼らは言っていますね。

久保田 王様の『王』の字を縦にしたようなマークをつけたウンモ星人といわれるものについてはどうですか。あれは実在するのですか。

秋山 私自身はある問題に関して異星人に聞いたことはないんですが、最近南米の方での問題に関して、かなりハイクラスの学者がいろいろと研究しているという話は聞いています。

そういう方々が出版活動して、むごうでベストセラーになっているらしいですが、問題は、あのウンモ星人の話の中には最初に哲学が出てこないといふ点に私はひつかかるんです。惑星の構造だと宇宙はこうなっているとか、いかにも我々の興味をあおるような即物的な話題はあの情報源から沢山出てくるんですが、そのウンモ星人のエイジメントだと名乗る人間が著名人などの所で情報を送り付けてくるんだそうです。しかし、どうも哲学がないといふところが私は気になりますね。

本来、異星人の何らかの意図をもった啓蒙活動であるのならば、最初に哲

学があるのがしかるべき道筋であると思ふんです。ですから別な何かの意味があつて、あのような事にこだわつて進行している宇宙問題とは別な意味があつてのことでしょう。

ゴルバチョフは異星人に会つた

篠 最近、共産主義国のソ連が解体されました。またゴルバチョフ氏は大変な努力を重ねた人だろうと思いますが、この人と共産主義の解体に関して、異星人がどのように援助されたのか、その点はどうでしょうか。

秋山 実は旧体制の時代から旧ソ連国

内に非常に発達したUFO情報に関するネットワークが存在していたんです。ソビエトのUFO研究の現場というのは、ある意味では科学アカデミーという科学者の集まりがある、そのなかでかなり自由に個々の科学者に研究をやさせて、そこから入ってきた情報を上の中核機関がいろんな形で整理して吸い上げてゆくという体制が昔からあつたわけです。

その過程のなかでKGBなりゴルバチョフ国家首脳なりがそういう情報を聞いてかなり深い事まで知っていた事実があるんです。そのときのUFO情報のファイルの分け方というのは、国防上危機になるか、それとも危機ではないのか、という分け方です。

学があるのがしかるべき道筋であると思うんです。ですから別な何かの意味があつて、あのような事にこだわつて進行している宇宙問題とは別な意味があつてのことでしょう。

ただペレストロイカ以降はそういう研究者達が個々に一般民衆に対しても活動をしています。それと同時にそろそろ国家首脳と異星人とのコンタクトに関する情報もいろいろ出てきつたんです。ゴルバチョフも具体的に異星人と接触はしたのですが、スターリンは接触できなかつたと聞いています。

国家管理上それが非常に危険なものであると認識されれば、すぐに何らかの具体的な行動に及ぶということになりますが、それが危険なものでない限りは、とにかく隠し抜こうという姿勢が中心になつていたわけです。

研究者達が個々に一般民衆に対しても活動をしています。それと同時にそろそろ国家首脳と異星人とのコンタクト

兄弟のきずなの強さ

岡部 アダムスキーは、人間関係で親子よりは兄弟のきずなが重要であると言っています。具体的には転生の前後に兄弟のつながりはどういう影響を残しているのでしょうか。

秋山 それはいろんな意味があります。それについては二つ考えられますね。一つは人間というものは意識のなかにおいて親子のつながりが非常に強く刻み込まれています。それが後に大きな転換になる場合もありますし、その人を発展させる大きな起爆剤になる場合もあります。つまり潜在意識の力といつたものが親子の愛情関係のつながりに非常に関連しています。

生まれたときに親子間の不幸な沢山の軋轢をかかえてくるようなカルマ的な状況があつて生まってきた場合、それが非常に深い傷となつて残る場合があります。そうした場合に、それを開放できるのは親子に次ぐもう一つの愛情態である兄弟(姉妹)、親類縁者などの関係です。

したがつて特殊な親によって抑圧されたケースの場合には、兄弟(姉妹)からの愛情的援助がその人のカルマを切り替えるのに親以上の役割を果たす場合があるんです。そのポイントを考えるとアダムスキーリーの言つた意味は大きいと思いますね。

UFOの色光について

加藤 今、井の頭公園の近くでよくUFOを見るんです。太体に光体が多いんですが、そのほかに海外で見た母船タイプのような物ですが、ただの光体ではなくて右端が赤色で、左端が緑とか青とか、移動しているときに先端がオレンジ色であつたりすることがあります、それは宇宙船のタイプの差によつて推進原理が色に関係していくのですか。

秋山 基本的には推進原理は統一されていると思います。問題は先に言いましたように光と母船の推進力との関係があるんです。基本的に母船がこのペンのような形をしているとしますと、

こう移動していますと、移動する先端の方が赤系統、後ろの方が青系統になる場合と、停止しているときに(中心部をつまんで振るようにして)ペンの首振り運動をして見せながら)一ヵ所を機軸にしてこういうふうに動く場合があります。それも片方だけを大きく回転させたり、小刻みに非常に早く回転することもあります。船体の中は完全に重力の制御をしていますから、中に乗っている人間には何の問題もありません。ある種のエネルギーをチャージする意味で母船が激しく首振り運動することがあつて、外見的には母船がちよつと膨らんだように見えます。また母船の後ろの部分がモヤで包まれたようになります。その場合は後ろが赤くなります。物凄く赤くなつて前が青くなります。ですから母船が空間からエネルギーを吸収しているとき、または一部分から放出しているときもそうです。

また光の操作をいろいろやることもあります。昼間空間にいる母船を人間に見えなくする技術があるんですね。そうすると船体は完全に透明化して人間に見えなくなります(船体はそこに実在するけれども人間の目には見えなくなるの意)。どの方向から来た光でもそれがやれるのです。

それと、まれに夜間に全体を蛍光灯のようにパーセント光らせる場合があります。これもデモンストレーションの一つです。これは目撃する側に意味があるんです。重要な意味があります。そのときに消えるときをよく見ていると、両端から消えるんです。私は母船が消えるのを非常に近い所から見たことがあります。ネオンを両側からパタパタパタ消してゆくように消えてゆきましたね。

たぶん母船には縦に動力源の纖維状のものが一杯入つているんだと思います。ために、ときどき夜間とか夕暮れ時に或る種の事を異星人はやらねばならないのです。或る種の特殊な操作を母船に対し行なう必要があるんです。その操作をやつしているときに両端が非常に興味深い光景です。



異星人はテレパシーが基本

体全身の細胞がそのガンに気づくんです。

松村 私達の太陽系には太陽系連合があると思いますが、それと、別な太陽系の連合とはどのような交流があるのでしょうか。

秋山 あるバーレベルをクリアーしたプラザーズ（異星人）達においては、テレパシーというものが基本的な通信手段になるわけです。我々が通信手段において普段のコミュニケーションのなかで重要視しているのは『言葉』です。実際に空気振動によって音を伝えることによって情報交流しているわけですが、彼らはかなりの割合でそれをテレパシーに切り替えているわけです。

このテレパシーというのは基本的に自分の意識で限定しない限り、たとえばテレパシーといったって月にまで伝わるまいと考えない限り、どこまでも伝わるのです。たとえば、地球で起きているいろいろな変化のバイブルーションをアンドロメダの異星人が同時に感知します。これはしそつちゅう起つてているんです。

結局、宇宙連合と言いますか、宇宙の連合体、たとえば太陽系連合があるとしますと、それは地球人のように国民党を組んでやっているのではなくて、お互いにそのようなバイブルーションが分かるわけです。たとえば、体の大部分にガン細胞ができるとしますと、

異星人の睡眠

これと同じように異星人達は同時にあの惑星に問題があるということに気づくわけです。それは正確に言えば、あるバーレベルを超えた異星人達はどうにいようと感じています。あとはそ

の問題をどう受け取るかによって、それが以後の行動パターンが変わってきます。それで、とりあえず地球に対して何らかのアクションを起こそうとして動きだすのは太陽系の人達が中心になつていています。

ところが、ごくわずかですが銀河系の中でも外でも或る惑星系でアンバラансな惑星を持つていて、そこからかりりの人達がいるんです。

あと、もう一つは具体的に地球に対して行動を起こすのを控えている人達もいるわけです。それはごく少數なのですが、そういう人達はアクションを起こすという段階になつて連合系には参加しません。ですが基本的には太陽系を含めて、その周辺の異星人は地球

小宮 私達は睡眠をとっていますが、別な惑星の方々は睡眠をどのようにとつてますか。

秋山 基本的には睡眠というものを彼らは生理的にもつていていますが、我々の睡眠よりはかなり短いんです。ですから我々は太陽というもののサイクルに従つて寝起きするという形が原始時代から定義づけられています。つまり環境に人間が合わせるという形でそうなつてきました。

ところが異星人は自分の肉体を意志もつするものが先だということで、そちらにかかりきりの人達がいるんです。

あと、もう一つは具体的に地球に対して行動を起こすのを控えている人達もいるわけです。それはごく少數なのですが、そういう人達はアクションを起こすといつて連合系には参加しません。ですが、基本的には太陽系を含めて、その周辺の異星人は地球

も三時間か四時間は必要だと思いません。

ただし今の地球人の場合には最低でも三時間か四時間は必要だと思いません。

それから、生理性的な睡眠という問題に関しても、彼らの意志でコントロールすることができます。

ところが異星人は自分の肉体を意志もつする力で変化させることがある程度でありますから、生理性的な睡眠という問題に関しても、彼らの意志でコントロールすることができます。

ところが、その一つは具体的に地球に対して行動を起こすのを控えている人達もいるわけです。それはごく少數なのですが、そういう人達はアクションを

マスメディアに煽られるな

田中 地球人は異星人の方からいろいろな形でご援助を頂いていると思いますが、このところのアメリカやソ連の動きを見ていますと、何らかの意図的なものがあつて、特にソ連の崩壊は私達の感覚では理解できないような動き方でした。これについて異星人の側からアクションがあつたのでしょうか。

秋山 結局、今の地球社会の動向については、その根本にあるのは或る種の想念のバランスです。それによって経済が動きます。経済と想念のバランスは非常に近いですね。心はお金では買えません。しかし心とお金は相対して動くという法則があります。

逆に言いますと、心を動かせばお金が動く。その原理を非常にテクニカルに体系的にコントロールしている人達がいるわけですよ。

たとえば近代社会における最大の権力者はマスメディアと言われているんですが、このマスメディアというのも非常に公正な情報を流しているように見えます。実はある一定のルールにコントロールされているんです。たとえば朝起きて午前一〇時ぐらいまでテレビのどこのチャンネルのワイドショーをつけたりして、かなり自由にコントロールできると思いますよ。これも意志の力で肉体をコントロールできるからで、精神と肉体の関係は重要な問題です。

そうすると、そんなメディアを動かしているのは何かといいますと、経済支配のネットワークが厳然としてあるわけです。

ですからアメリカが悪いわけではありません。そういつたネットワークの中核になるものがアメリカの中に沢山あるわけです。それがアメリカという国家を超えて、国家に支配されることなしに、いろいろな意味でアングラマネーを動かしたり、メディアを動かしたりしながら世界戦略を展開している傾向があるんです。確かにあります。

だからソビエトの崩壊もソビエトだけが勝手に倒れたわけではないんで、そういう微妙なミリタリーバランスによって成り立っています。

しかしそこで我々が見抜くべき問題は、そうした世界経済のネットワークでさえ、人間の想念がお金を動かす事を見つけていたという点です。ですからお金を使わなければなりません。だからメディアを使うわけです。お金だけで大衆を買うことができたら、彼らは造幣局や銀行を押さえるでしょう。ところがそれだけでは世界が動きません。大衆の心を動かすことが必要です。

だから我々一人一人が簡単にメディアに動かされないようにすることです。UFOの世界でもそうですが、最近の精神世界では非常に沢山の情報が流れています。特に最近メディアで話題に

なったUFO問題一つにしても微妙に突いていると思うんですが、むかしはあるわけです。アダムスキーライフ盤がどこそこへ出現したと盛んに流した時があったのですが、それでは視聴率が上がらないのです。そうなると今度は攻撃説に転向するわけです。

ところがデイレクターに攻撃説を売り込んでくる海外の人達がいるんです。

それは或る種の研究家といわれる人達ですが、こういつた人達がUFO陰謀説を声を大にして唱えたのは、また一

つの理由があるんです。たとえば超能力なりUFOが国家危機に関係するというわけです。たとえばソ連の超能力戦略はアメリカを攻撃しようとしているとか――。それで一時期アメリカ政府はその研究に膨大な予算を使つた時期があります。

今回もアメリカの一部のUFO研究家達が「UFOというのは地球にとって危機である」と言って、これをキャンペーンすることによって国家から、特に軍部から莫大な援助資金を引き出しきります。

アメリカが最も気にする日本のマスメディアからそのことを盛んに流してもらいう必要があつたわけです。

そこで単純な見方で見ればよいと思うんですよ。ケンカを^{あお}燒くようなもの、または「こうしなければならない」というような事を焼くのを避けることです。ところがどのように考えても理不尽な方向に「こうしなければならない」と言われつつ、みんなが巻き込まれてしまうようなものを、個々に検証して正しく評価してゆく必要がありま

すね。

この数年間、中国で盛んにブレイザーズの動きがあつて、中国の超能力者達が盛んにブレイザーズとコンタクトした時期があります。私はそうした関係で中中国の情勢をいろいろと調査していくのですが、最近になって中国からスペースシャトルを飛ばすという計画が進行中です。これはいまだに報道されていませんがね。そのうち報道されるでしょう。アメリカのNASAがなんとか中国からスペースシャトルを飛ばすといふわけです。経済危機といふのに、なんで中国からそんなことをやるのかなという思いにかられているんですけど、それでも、結構いろんな宣伝が動いているようですね。

もう一つ重要なのは何のために生きているのか、こうした問題を常に自分に問い合わせてゆく時期に入つてゐると思いますね。と同時に、個の時代に入つてゆくといわれてから五年ぐらい経つんですが、そろそろ自己確認を踏まえながら、もう一度、先ほどの親子兄弟、つまり家庭の問題を見直す時期に入つてゐると思うんです。

それと過去において戦争で焼け野原になつた日本を奇跡的に復興させた祖先がいたからこそ今日の繁栄があるわけですから、そうした歴史に対する感謝が必要です。感謝のエネルギーといふのは何よりも強大なのです。私達は今後新しい時代を創造してゆかねばなりませんが、その創造のエネルギーの中にはいくつかの根本的なエネルギーがあると思いますが、その内、非常

当面のテーマは何でしょうか。

秋山 そうですね、日本はあらためて物質的に豊かになりましたし、個人主義の時代だといわれるようになりました。だからこそ、その余裕を生かして、まず個々の価値観を明確にすべきだと思います。自分のアイデアは何か、自分が社会に対し自分しかできない事は何だろうか、個々にみな顔が違うように、個々に社会に対して絶対に提供できるものがあるはずです。

もう一つ重要なのは何のために生きているのか、こうした問題を常に自分に問い合わせてゆく時期に入つてゐると思いますね。と同時に、個の時代に入つてゆくといわれてから五年ぐらい経つんですが、そろそろ自己確認を踏まえながら、もう一度、先ほどの親子兄弟、つまり家庭の問題を見直す時期に入つてゐると思うんです。

それと過去において戦争で焼け野原になつた日本を奇跡的に復興させた祖先がいたからこそ今日の繁栄があるわけですから、そうした歴史に対する感謝が必要です。感謝のエネルギーといふのは何よりも強大なのです。私達は歴史に対する感謝のエネルギーです。

Plane Without A Crew

— 1 —

飛行機を
助けた
謎の
UFO

かんじんの輸送機のキャビン内は酸欠で乗組員達が倒れている。強力な気流の恵みによつて機体はあてもなく大空を漂流しているのだ。

この輸送機はいつしたといふのか。

このAN-12の搭乗員達は、飛行準備の完了と悪天候の回復を待つて、チエルヤビンスクで三日間をすごした。彼らはトランプ遊びや飲酒などで時間をつぶしていた。

極端な秘密主義をつらぬいてきたからである。だが今後は多くのUFO事件が漏洩するだろう。

極端な秘密主義をつらぬいてきたからである。だが今後は多くのUFO事件が漏洩するだろう。

パイロットを含む八名の搭乗員全員が意識不明になりながらAN-112陸軍輸送機がチャエルヤビンスクからウファ間を七三分間も八〇〇メートルの高度を飛行し続けるという謎の大事件が発生した。この輸送機はコースを変え続け、絶えず墜落の危険にさらされていた。地上のレーダーでこの機影をキャッチしたものはない。

「ここはどこなんだ？　どこへ向かつて飛んでいるんだ？」

副操縦士の弱々しい声をかすかにとらえた管制センターは急遽救援態勢にはいった。

離陸後二〇分たつて管制センターが輪

その誤差やパイロットの声の抑揚がへ
ンなのにきづかぬまま、カングロフはこ
の情報をウファへ伝え、輸送機に最後の
指令を発したのだが、すでに搭乗員達は
みな意識を失っていた。こちらの指令を
相手が聞いたかどうかを確かめぬままに
カングロフは無線機から離れた。だが失
策をやつたのはカングロフだけではない。
ウファの管制官バカラフは、輸送機の
位置を確認しないばかりか、AN-112
が、いつ、どこからウファ地区へ侵入す
るのかを確かめなかつたのだ。一方、
輸送機は飛び続けたのに、三ヵ所の管制
センターはそれを探知できず、三ヵ所の
防空基地も気づかない。これは輸送機自
体ばかりか旅客機や地上の何も知らぬ乗
客達にも脅威となる。事件全体が後に発
生する各種の事件のための総舞台稽古の
ようと思われた。

この物体が発見されてからない。
輸送機の副操縦士が朦朧としてきた。プロトフスキーベレーシヨンの主任であるアンドレーヨフスキーが応答する。

「いつたいどうしたんだ？」
「機内の気圧が下がった」
「気分はどうだ？」
「たいへん悪い」
「心配するな。無線誘導する

誘導の結果、雪で覆われた体が少しずつ降下する。車輪で胴体着陸。やつた！一同は歎声をあ

体下部の緊急脱出用ハッチから乗り込んで来た。ところが、前夜の飲みすぎて朦朧としていたうえ、急いでいたために、ゴムの空気漏出防止装置を閉めることを忘れたので、ハッチは完全にロックされず、そのため圧力が低下して悲劇が起ったのである。

搭乗員全員がほとんど意識を失ったまま体を起こすことができず、ぐつたりとしている。いわば無人状態におちいったのだ。それでも飛行機は七三分間に異常なく飛び続けた。何が機体を支えたのかUFOにちがいない！

この事件はソ連の軍事機密として極秘にされていたが、ゲナディー・ボカロフ氏によつて明るみに出された。

これは昨年九月に報道されたソ連の世にも不思議な実話である。軍事機密にござっていたが、ソ連邦の混乱につれてリテラトゥルナヤ・ガゼッタが報じたもの。

送機に対して高度を知らせよと伝えたとき、操縦士は六一〇〇メートルの高度でツラトウストの上空を通過していると答えた。管制官のカンダロフが再度尋ねる

クリーンに未確認の映像を認めたのである。そこで、このUFOが存在する地域にいる航空機群に連絡してみると、この

三日目の夕方、夕食の料理を食べないで夜食用に持つて出た一同は、一杯やりながら夜をすごした。

奇跡を起こすと 反復思念と イメージ法

久保田八郎

前号に掲載した『ミラクル・ワード』とミラクル・イメージについてもう少し詳細に述べてみよう。

ミラクル・ワードとは奇跡を起こすための言葉で、これを反復して唱えることを意味し、ミラクル・イメージといふのは奇跡を起こすためのイメージを描き続けることを意味する。

積極思考が重要

一般人は将来自分が何かを実現させようとして計画した場合、その方向に向かって一応努力するけれども「成功するかどうかは分からぬが、ともかくやつてみる」という程度の想念しか起こさず、あるいは「到底実現しそうにもないぞ」と悲観的な想念すら起ることが多い。これは地球上の最大の欠陥であると聞いている。

こうした計画を立てた場合は、「必ず実現するのだ。実現する以外に方法は

ない。自分は絶対に実現する方向に向かっているのだ」という強力な想念を持ち続けることが必要である。このよくな積極的思考を英語ではpositive thinkingというが、これは能力開発の原理で最も重要なものとされている。いかえれば「プラス思考」ともいう。むかし神戸の偉大な指導者であつた異直道先生は「思い込むことは実現する」という理論を唱えて、多くの苦しむ人達に奇跡を生じさせておられた。特に難病で苦しむ人を奇跡的に治しておられた実例が多くたようである。

これに反して「自分はダメだ」とか、「こんな事が実現などするものか」といふ悲観的な想念を起こすことをnegative thinkingといい、これは『マイナス思考』といふ。地球人の特徴であるといわれている。

病気は本来存在しない

反復思念法は決して難しいことではない。たとえば難病で苦しんでいて医学でも治らないような場合、大抵の人は「医学に見放された」と思い込んで悲観的になり絶望の淵に立ってしまう。

しかし少し考えてみると、この大宇宙の創造パワーは、苦しめるために人間を創造したのではないことが分かる

卷)。

想念が肉体に及ぼす影響に関しては、新アダムスキーカー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』中の第二部で異星人の長老が大母船の中でアダムスキーに説いて聞かせる場面がある。これは素晴らしい真理の言葉であつて、これを応用しないといふ手はない。

それによると、人間の肉体は本人の想念が鑄成され、それが強弱をどのようにもあらわすという。いいかえ

れば、「自分は健康だ!」と自分自身に向かって想念を吹き込めば、肉体がそのままこの大宇宙に「病気」といふものは本来存在しないのであって、あるのは完全な健康体だけなのだ。

「しかし現実に沢山の病人がいるではなかろう」と反論する人が多いだろうが、それは病気が実在すると思い込んでいるがゆえに、その思い込みによつて、自分でそれを作り出しているにすぎないのだ。つまり病気の幻影を背負い込んで、それが実在するかのとき錯覚を起こしているのである。

いさかか非現実的な哲學的表現だと思われるようだが、実際に病気の存在を否定し、強烈な健康的イメージを描き続けて自分の心臓病を治した婦人が以前日本GAPの会員にいた。この方はアダムスキーカーの『生命の科学』を読んで大悟し、イメージ法を応用したと聞いている。イメージ法に関しては同書に述べてある(『生命の科学』は中央アート出版社刊・新アダムスキーカー全集第三

述べてある)。医学は科学の最先端を行くので、それで治療すればこれに越したことはないが、容易に治らぬとなれば物凄い恐怖心を起す。その恐怖心でますます肉体を弱らせるのである。

一般人はこんなイメージを描いて肉体を変化させる方法を全く知らず、肉体をたんなる物質の固まりぐらにしか思っていないので、病気になると恐怖心を起こして病院に走り込む。医学は科学の最先端を行くので、それで治療すればこれに越したことはないが、容易に治らぬとなれば物凄い恐怖心を起す。その恐怖心でますます肉体を弱らせるのである。

まず自分自身に対しても強烈な激励説をやればよい。「私は健康、無限に健康、絶対健康!」この言葉を間断なくくり返して唱える。口に出して唱え



「全身の細胞しょく——ん！ さあ、反復思念を始めよう。そ——れ、私は健康、無限に健康、絶対健康！」この言葉を唱えると同時に全身の六〇兆の細胞がいつせいにその言葉を唱和して叫んでいるようなフイーリングを起こす。そして自分が完璧な健康体になつて歓喜に燃えながら野原を思いきり走り回っている姿を心の中にイメージとして描くのである。これをたえ

るのが都合悪ければ心中で唱えてもよい。その想念を自分の肉体全身に吹き込むのだ。

これを始めるときはまず次のように大声で呼びかける。

「全身の細胞しょく——ん！ さあ、反復思念を始めよう。そ——れ、私は健

康、無限に健康、絶対健康！」

この言葉を唱えると同時に全身の六〇兆の細胞がいつせいにその言葉を唱和して叫んでいるようなフイーリングを起る。そして自分が完璧な健康体になつて歓喜に燃えながら野原を思いきり走り回っている姿を心の中にイメージとして描くのである。これをたえ

するとある日、突然、肉体に変化が生ずるだろう。そして軽快したことをして驚喜するだろう。あるいは、一時期悪化したような状態になつて、それから潮が引くように病気が消滅するかも知れない。これは治るための好転反応であるから恐れる必要はない。

ただし医学的治療で治るものならば、治療を受けて治すほうが手つとり早い。妄想的になつてはいけない。

想念は波動で放射される

想念なるものについて科学的な解明はまだなされていないが、想念の力が偉大な効果を發揮することは昔から知られている。想念を強化した念力とい

うものはスプーンを曲げるほどの怪力を有するけれども、その原理は未解決である。しかし多数の実例からみて帰納的に『或る力』の存在を認めることは不合理ではない。いつかは科学で解明されるだろうが、この『力』を伝達するものは波動であると考えられていいだ。つまり想念は波動となつて放射されるのだ。

このようにみるとテレパシー現象も

容易に理解できる。このテレパシーに関する研究もアメリカは非常に進歩的で、一九五八年に原子力潜水艦ノーティラス号を利用して二〇〇キロ離れた二地点間で想念の送信と受信の実験が実施された。送信者はメリーランド州のフレンドシップ市からゼナーカードの图形を一つずつイメージを描いて想によって送信し、それを北海の海

中に潜航している潜水艦の一乗組員が受信する。この命中率は七五パーセントであつたというから凄いものだ。

もつと凄いのは、人間が心中で描くイメージがテレビの電波みたいに二〇〇キロも彼方に届いて別な人間にキャッチされる現象が発生したという事実である。これに類似した人間同士のテレパシー現象は昔から無数にあるので、それからみると想念が波動となって空間を行進するという事実は間違いないだろう。

願望は必ず成就する

そこで、強力な想念によつて肉体の故障が治るという現象も、結局は想念波動が細胞に影響を与えるためである。細胞はれつきと解することができる。細胞はれつきとした生き物であり、意識を有するから、当然、他から来る波動に感應するはずだ。これについてはすでに或る程度医学で研究されているようだが、まだ一般化していない。

奇跡発生の実例

そのことはアダムスキーム『生命の科学』中で解説しているが、特にイメージ法に関して力説している。

それで日本GAPはむかしから反復思念とイメージ法によつて奇跡を起こす方法を提倡してきた。またそれによつて素晴らしい成果をあげた人達が多数いる。病気治しばかりでなく、生活のあらゆる面で応用出来るのだ。

実例を二、三あげよう。

山形県に住む古くからのGAP会員である女性のSさんは、日本GAPが毎年実施している海外研修旅行の一九

人間の願望が何であつても、強力な反復思念とイメージ法によつて奇跡的に実現するということが諸々の能力開発研究家から唱えられるようになつた。代表的なのはアメリカのジョセフ・マーフィー博士だろう。故マ博士は膨大な書物を出しておられ、その邦訳版が産業能率大学出版部から多数出ているので読まれるとよいだろう。

八四年度第二次エルサレム旅行に参加したくてたまらなかつた。二〇〇〇年昔、イエスが活躍したパレスティナの大地を自分の目で確認したかったのだ。しかし当時彼女が勤めていた地元のテレビ製作会社で、八月に一二日間も休暇を取ることは逆立ちしても不可能であつた。だがSさんはミラクルワードの反復思念をくり返した。「必ず行ける。絶対に行ける!」。そして実際に自分がエルサレムの古い街路を嬉々として歩いている光景のイメージを中心にして描き続けた。

あるとき同僚の女性が急病で入院して長期間休むことになつた。「いいわよ、あなたの仕事の分まで私がやっておくから、安心して療養しなさい」と親切なSさんは慰めて見送つた。

おかげで同僚の女性は安心して治療を受け、やがて全快して会社に元気な姿を現した。そしてまた二人は一緒に仲よく働いた。

ある日、Sさんはエルサレム旅行の件をなにげなく洩らした。「なんとかして行きたい!」

同僚の女性は事もなげに言つた。「行つてらっしゃいよ。今度は私があなたの分まで仕事をしてあげるから」こうしてSさんは奇跡的に休暇が取れて勇躍エルサレム旅行に参加できたのである!

動が方向づけられ、その見返りとしてSさんに休暇が与えられたのではないだろうか。決して偶然とは思えない。

仙台市に住むOさんは、かねてからパソコンが喉から手が出るほど欲しかった。しかしまだパソコンという機械が高価な頃だ。手元不如意で容易に買えない。だがOさんはあきらめず、しきりに入手したイメージを描き続けたところ、あるとき思いがけず懸賞にあたってパソコンが与えられた。

某県に住むT氏は、ある理想的な女性を嫁にしようとイメージを描いていた。あるとき支部大会のあとで夕食会があったときに、隣に座り合わせた女性と親しくなつて、結局は結婚した。

最近の例では、横浜市にお住まいの会員・K氏から、ミラクルワードの反復思念とイメージ法で市内にマンションを買うことが出来たという報告があつた。詳細は不明だが、数千万円もする物件が購入できたとは素晴らしい成果であると思う。

原因と結果の法則

この世の中に偶然なものは何もない
とアダムスキーリーは言っている。すべて
の結果には絶対的に原因がまず先行す
る。これをGAPでは「カルマの法則」
と呼んでいる。原因と結果の法則だ。
これを因果関係ともいう。

良い結果を得ようとすれば、良い種
をまいておかねばならない。その良い
種とは「良き想念」である。しかもそ
れはたんなる『お人よし』的な想念で
はなく、「必ず良い結果になる!」とい
う意図的なプラスの想念なのだ。これ
がまず四次元世界で青写真を描き、次
いでその青写真通りに現象面で展開し
てくる。この法則が間違いないことは
無数の実例から首肯できることである
きょう

今日、私は柔和にきょうわ
ところがこの世界はなんとまあ分裂
感情に満ちていることか。怒り、憎悪
反感、復讐心、軽蔑感、差別感等、あ
らゆる分裂感情が渦巻いているのがこ
の地球世界である。こんなマイナス想
念波動帯がどつしりと地球を取り巻い
てているのだから、これでは地球社会に
平和の到来は望み得ない。上司は部下
を怒鳴りつけ、部下は上司をバカにす
る。社内でも主流派、反主流派、ノン
ポリ派と分裂して反目しあう。

だが、このような世界を天国に変え
ることは不可能ではない。社内のたつ
た一人の人間が宇宙的な思想を持ち、
全社員に対して感謝と奉仕の態度で接

無生物も生き物

するならば、その想念波動は必ず全社員に良き影響を及ぼして、大いなる変化を起こすだろう。怒鳴り専門の上司は人が変わったように柔軟になり、全社員の目が輝いて、調和と親切とに満ちた温かい雰囲気が生じるだろう。ウソだと思えば、まず自分で実行してみるとよい。必ずそうなると筆者が請け負う。

まず自分自身が柔軟になること。それは表面だけの柔軟ではなくて、心底からの宇宙的な柔軟さに徹することである。そうすれば、あなた自身が報われるのだ。一日の終わりに「今日、私は柔軟に過ごした」と言える生き方が出来れば、自分自身の運命はどうにでも良き方向に向いてくる。

企画変更

日本GAP企画第14回海外研修旅行

アメリカ・チリ アルゼンチンイースター島の旅 宇宙ロード

大気圏外に思いを馳せるのは結構ですが、
私達のホーム惑星である地球再発見も大切で
あるとの見地にもとづいて、日本GAPは過去
13年間、毎夏に海外研修旅行を実施してき
ました。その間、謎の遺跡の見学を主体に訪
れた国は延べ約50カ国に渡り、参加者も延べ
約400名に達しています。

1992年も8月にアメリカと南太平洋の謎に
満ちた孤島イースターへの旅を実施します。
ここは私達にとって未知の土地。素晴らしい
体験が待ち受けていることでしょう。

アメリカでは屈指のリゾート、マイアミに到着、次に南米チリの首都サンチャゴへ直行。
ここをたっぷりと見学後、ここから3700km離
れたイースター島へ飛び、名高いモアイ像その他の謎の遺跡観光を満喫して、またサンチャ
ゴへ帰り、この美しい都市でゆっくり散策休養。
次にアルゼンチンの首都ブエノスアイ
レスへ行き、ここで観光し、再度マイアミへ
帰って休養後、帰国するという豪華な大旅行
です。皆様のご参加をお待ちしております。
日本GAP会員でなくても参加できますので、
お説明ください。

日程概要

- 1992年8月11日(火) 18:20成田発。
翌日マイアミ着。飛行機を乗り換えて南米チリ・サンチャゴへ直行。
14日 朝サンチャゴ着、市内観光。
15日 終日市内観光。サンチャゴ自然博物館、アルマス広場、大統領官邸、サン・クリストーバルの丘、マイポキャニオン等を見学。
16日 イースター島行き。
16~19日 島内観光。カルデラ湖、鳥人の儀式村、各種モアイ像等を見学。
20日 再びサンチャゴへ。
21日 ブエノスアイレスへ。
22日 自由行動。夜ブエノスアイレス出発。
23日 朝マイアミ着、自由行動。
24日 マイアミ発。
25日(日) 15:25成田着。
全行程15日間。3カ国訪問の大旅行。

■期間=1992年8月11日(火)~25日(火)

■費用=未定

■定員=20名

案内書請求・参加申込先 下記へハガキでお申しだみ下さい。(日本GAPでは扱いません)。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9
サンイーストビル2F

ワールドセブントラベル株式会社

田中正

☎03-3499-2461

(夜間は 0475-89-2039・田中自宅へ)

●費用は24回払いローンもあります。詳細は案内書をご覧下さい。

●夏はサンチャゴからイースター島までの飛行機
が込みますので、参加申し込みは早めにお願い
します。

●旅行説明会=第1回目・1992年5月17日(日)

第2回目・1992年7月26日(日)

(会場等の詳細は申込者に通知します)

企 画=日本GAP

主 催=株式会社日本旅行

(運輸大臣登録一般旅行業第2号)

取扱い旅行代理店=ワールドセブントラベル株式会社

(運輸大臣登録旅行業代理店業第1957号)



るからではないだろうか。彼らは相手からの波動をキャッチして選択するのではないか。その波動の根底をなすのは宇宙の創造主の意識波動ではないのか。

このようにみると万象の解説はやはり科学によるのだろう。だが地球の現段階の科学ではまだ前途遠遠である。地球の航空機に人工重力場を持たせることなどまだ夢にすぎない。しかしあつかは実現するだろう。そして遙かな惑星群を訪れて、大文明を享樂して生きる高度な発達をとげた人々と交流する時代が来るのも遠い先のことではないと思う。

Cosmic Meditation (大宇宙瞑想)

もつとよいのは日本GAP東京月例会で行なつていねcosmic meditation (大宇宙瞑想) の実践と並行してミラクル・ワードとイメージ法を行なうことだ。同時に行なつてもよいが、別々に実行してもよい。

この瞑想法は決して難しいものではない。方法は次の通りだ。まず立ち上がりて背骨をまっすぐに伸ばし、両手を下腹の上にあてて組む。顔を少し上向きにし、目をつむる。これで姿勢はOK。

鼻から少しずつ息を吸い込みながらそれを下腹へ落とすつもりで腹をふくらませてゆく。一杯に息を吸い終わつたら。

て全身が非常に爽快になる。そして心が開放されて氣宇壯大な気分になる。

これは頭に精神を集中させることでない。全身の細胞を大宇宙の意識(創



► 東京月例会における大宇宙瞑想の実際。

撮影/松村英之

たならば、一瞬息をとめて腹を充分にふくらませた状態で、全身に『宇宙の意識』(宇宙の創造主のパワー)が充満しているようなフィーリングを起こす。そして息を少しづつ口から吐いてゆく。

息をとめた状態のときに全身に宇宙のパワーが充満したというフィーリングを起こすのが秘訣であつて、それだけのことだが、これには素晴らしい効果がある。

まず全身が非常に爽快になる。そして心が開放されて氣宇壯大な気分になる。

これは頭に精神を集中させることでない。全身の細胞を大宇宙の意識(創

造主)と一体化させて、自身を大宇宙の中へ溶けこませ、万物との一体感を感じる方法である。

この方法について秋山眞人氏に話をしたら、氏は次のような有益な話をした。「呼吸法については私もだいぶ研究してみたのですが、中国では東洋的な方法がすべて丹田(へその下)呼吸なんですね。息を鼻から吸い込んでお腹の底に落とすのです。

それで今おっしゃった方法と全く同じ方法を昔の大超能力者であつた三田光一氏も説いていましたし、もつと昔の沢庵和尚も言っています。ユリ・ゲラーも念力で物体を動かすときには、お腹に息を吸い込んで、それを吐くときには動かすようにしていますから、この腹式呼吸は非常に優秀なメカニズムでして、ゴールデン・ルール(黄金律)と言つてよいでしょう。

私がこのまえ中国へ行きましたときに、超光という氣功の偉大な老師に会つたのです。この方は中国の氣功の世界ではトップにおられる方です。北京の大きな病院の顧問もやつておられて、お医者さんでもあります。

この超光先生に能力開発法を教えて下さいませんかと言いましたら、日本には禅がある。能力開発に関しては日本のはうが優秀ではないかとおっしゃるんです。禅の呼吸法にすべてが集約されているというわけです。

そこで私が、日本の禅と中国の氣功

との共通点がありますかと聞いたら、集点法というのがある。これはイメージの中でエネルギーの集中点を作つて、その集中点を体の中でぐるぐる回す方法なのです。そうすると細胞が活性化するというわけです。この集点法というものは日本でも流行っているんですが、その場合はやはり丹田で最初にエネルギーのポイントをイメージします。次にそれを頭の上まで上げて言つて、上からそれを噴水のように放出していく、肛門のあたりで吸収して、また頭へ回して行く方法です。ところが先生はこの方法は非常に危険だと言つていました。つまり意識の集中のポイントを頭に置くのは敏感な人に良くない影響を及ぼすので危険だというわけです。

だから超光先生は、頭へ持つて行かないで、お腹の中で集中点を回すといふのです。つまり丹田(へその下)に集中点を固定して、そこにゴムマリグライのエネルギーの固まりがあるとイメージしながら息を吸い込んで丹田に力を入れた状態のまま、エネルギーの玉が回っている光景をイメージする。その玉が回転しているイメージからどんどん体内に影響が出て活性化するというわけです。だから一種のイメージ法なんですね。

超光先生に聞きましたら、もともと下腹部の丹田という意味は、丹とはクリという意味で、しかも非常に範囲の広い万能薬をあらわすというわけで

す。そして田というのは貯蔵庫をあらわすと。つまり万能のエネルギーを生産する場所という意味です。

非常に単純なことなんですが、超光先生に言わせれば、丹田に意識を集中させて、イメージすることがすべてだというわけです。それしかないというんです。私はこれを聞いて非常な感銘を受けて、やはり非常にシンプルな方法のなかに本物があると思いましたね。

ところが人はもつと複雑な神秘的な方法があるだろうと思って、なかなかこんな簡単な事を実行しません。しかしこれにチャレンジして、ある期間実行して最も効力があるのは、たぶんこの丹田の意識集中の方法だと思います。

以上のとおりで、筆者が多年実践してきたcosmic meditation（大宇宙瞑想）は期せずして中国気功の大長老の理論と一致していたということになつた。しかし筆者の場合は氣功から取り入れたのではなく、あくまでも筆者が編み出した方法である。氣功と直接の関係はない。

ただし『瞑想』という言葉には宗教的な響きがあるので好ましくないのだが、他に適当な言葉が見つかぬので、今は仮にそのように称しているだけである。アダムスキーフィルモアは宗教ではない。GAPを宗教的だといつて批判する人は氣の毒な存在である。

『宇宙の意識』の定義

それはともかくとして、アダムスキーフィルモアが徹頭徹尾人間のマインド（心）と『宇宙の意識』との一体化を提唱していることは、彼の絶筆となつた『生命の科学』で明確である。

ここで『宇宙の意識』という言葉の意味を明確にしておくことにしよう。これは英語でCosmic Consciousnessといい、宇宙全体を一つの意識体とみた呼称である。言い換えれば『宇宙の創造主』と同じ意味だ。

ところがこの頃、あいだに『の』の字のない『宇宙意識』という言葉をよく耳にする。これは人間の側で起こす宇宙に対する意識であつて、人間が宇宙の存在を意識すると言う場合の意識である。片や神そのもので、片や人間そのものであるから、この区別はつきり知つておく必要がある。アダムスキーフィルモアは神という言葉をほとんど使用しないが、これは宗教と間違えられるのを警戒したためだろう。そこで『宇宙の意識』という造語を用いたのだが、これは素晴らしい呼称であると思う。

重要なきつかけをなす瞑想

『生命の科学』によれば、われわれはマインドと宇宙の意識との一体化を図るのに、特殊な行法を必要としないと述べてある。そこで大宇宙瞑想だが、アダムスキーフィルモアはそんな事を言つてはい

ないから邪道だという人がいる。

これに対して一言。アダムスキーフィルモアは特殊な行法とは一九五〇年代から六〇年代にかけてカリフォルニア州に飛びこつた怪しげな新興宗教群の奇怪な行法を意味するのである。このことは昔ビスターで聞いたから間違いはない。

われわれが行なう大宇宙瞑想はマンドと宇宙の意識との一体化を自覚するためのきっかけをなすものであるから、良いことではあっても悪かろうはではない。げんに昨年より東京月例会でこれを実習し始めてから、体の調子が非常に良くなつたとか、テレパシーなどの感覚が高まつてきたという人達が多い。続けければ必ず効果はあるのだ。

簡単ではあるが大宇宙空間に充満すると思われる創造主のパワーと英知とを実感するのに最有力な方法である。

創造王は人間を楽しませるために作り出したのであつて、苦しめるためのセント間違いない。そして「幸せになりたい」という願望を世界中のあらゆる人間がいだいてることも一〇〇パーセント間違いない。しかも幸せに暮らすためには自分の願望が成就されねばならない。

だが、しかし想念の用い方を知つて、それを正しく応用すれば、必ず幸せはやつてくる。紙数の都合により、ここで詳細な説明は不可能だが、前述のミラクルワードによる反復思念法とイメージ法を応用すれば、どのような結果でも出せる。

再度言うと、望ましい物事を実現させるには「必ず実現する！」という言葉を万遍なく唱えるとともに、すでに実現してしまつて歓喜に燃えている光景を心中でイメージとして描き続けるのである。心中で唱えるミラクルワードは自分で適当に作ればよい。

しかし人間個々にはそれなりの大イメージを描いても実現しない場合は、その目標を変えるほうがよいという示唆が与えられたと解して計画を変更すればほうがよい。学生は全く勉強をやらずにイメージだけ描いていても試験に合格しない。イメージを描きながら学習すると、合格する道にのつた学習法を採用するようになる。病人がイメージ法に自信がないか、または医学の治療を受ける方がよいという印象を受けたならば病院へいくほうがよい。そのならば病院へいくのがよい。その場合も優秀な医師のいる病院へ行くよう内部の意識が導いてくれるだろう。極端な精神主義はむしろ危険を招くので注意を要する。要は「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」を失わないことが最重要である。

エイズウイルス漢方薬で退治

中国の医薬専門家は体外エイズ（後天性免疫不全症候群）ウイルスを三〇秒で死滅させる純天然植物薬消毒剤の開発に成功した。

TG901、TG901Aと名付けられたこの二つの消毒剤は北京中聯企業現代系統工程開発公司の牛風和、趙榮昆の両副研究員らが開発したもので、三年の努力の末、数百種の漢方薬および中国古代製法を選別、比較配合する中で多種の貴重な純天然植物薬を選び出し、科学的抽出方法で開発したもの。中国予防医学科学院エイズ研究・検査センター、中國軍事医学科学院微生物流行病研究所と北京市性病予防治療研究所などの部門が鑑定したところ、一〇倍に薄められたこの消毒剤はエイズウイルス、梅毒トレボネーマ、淋菌を三〇秒以内に一〇〇パーセント死滅させることができ、死滅時間は以下の世界で最も早いことが判明した。

また、カンジダなど腹膜原性真菌に対しても非常に強い殺菌作用があり、人体にはなんら副作用がなく、皮膚や粘膜に対するもの全く刺激性がない。（12・21毎）

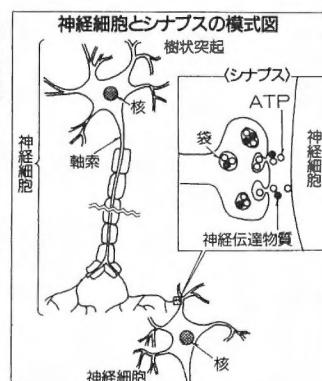
ATPと記憶に相関関係

脳の神経細胞から神経細胞へ刺激が伝わるとき、神経伝導物質と一緒に放出されるATP（アデノシン三リシン酸）の役割は謎だったが、東京都神経科学総合研究所流動研究員の関野祐子さん、山形大医学部生理学教室の加藤宏司教授らのグループは、ATPが神経細胞間の刺激伝達の効率を高めることで、記憶と深いつながりをもつていていることを突き止めた。記憶の仕組みの解明に役立ちそうだ。

人間の脳は約一四〇億個の神経細胞が

複雑な回路を形成し、思考や記憶などをつかさどっている。神経細胞と神経細胞が接している部分は「シナプス」と呼ばれ、ある神経細胞に刺激がくると、小さな「袋」の中から神経伝導物質とエネルギー蓄積物質のATPがシナプスのすき間に放出される。

神経伝導物質にはアセチルコリン、カーテコールアミン、グルタミン酸など約四〇種類が知られており、隣の神経細胞に直接刺激を伝える。しかし、ATPの働きは一時的に刺激の伝達を促進したり抑制したりすることぐらいしかわかつていなかった。（1・7朝）



超重量級ブラックホールか

米航空宇宙局（NASA）は一六日、地球周回軌道を回っているハッブル宇宙望遠鏡が太陽の重さの二六億個分に当たる超巨大ブラックホールに吸い込まれていると考えられる恒星の姿を写真にとらえたと発表した。

これはおとめ座にあるM87という五二〇〇万光年かなたの橿円状銀河の光学観測からわかったもの。観測によるとM87銀河では中心部に近づくにつれて、恒星のばらつきが次第に密になっている

ことがわかり、わが太陽周辺の恒星の密度の一〇〇〇倍になっているとのデータもある。こうした現象は恒星が巨大な

ブラックホールに引き寄せられているとも知れないという。（1・18読）

夢の“超電導船”進水

スクリューを使わない世界初の超電導電磁推進実験船「ヤマト1」が神戸市兵庫区の三菱重工業神戸造船所で完成、二七日前、進水した。早ければ夏から大

阪湾で実験航行を開始する。

超電導船は超電導磁石で強力な磁場を作り、ダクトに取り込んだ海水に電流を流すことで、磁場と電流の相互作用により、海水を後方に押し出し推進する仕組み。スクリューを必要としないことから、理論上は一〇〇ノット（時速一八〇キロ）の高速航行が可能。騒音、振動もなく、次世代船として実用化が期待されている。

ヤマト1は「シップ・アンド・オーシャン財團」（謝敷宗登理事長が昭和六〇年から約五〇億円をかけて開発。全長約三〇メートル、幅一四メートル、重量二八〇トン、定員一〇人。（1・27読）

低温核融合に“新証拠”

NTTの実験は、パラジウムの小片に重水素ガスを吸わせ、真空容器にいれて観察した。すると約八時間の実験中に、電気を持った一〇〇〇以上の粒子が爆発的に発生する現象を四～五回確認した。エネルギー測定から、この粒子が重水素同士の核融合で発生した陽子であるのは確実という。

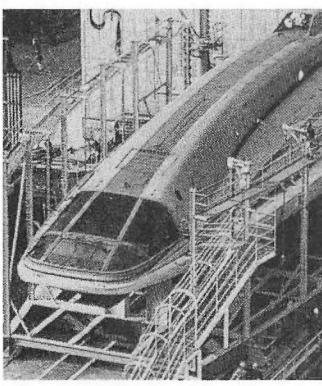
山口主任研究員は「陽子の発生は重水素の核融合が起きた決定的な証拠になる。さらに実験を進めれば、論争に決着をつけられる」と自信を見せている。

一方、大阪大のチームは、パラジウムを陰極にして重水を電気分解する実験を昨年暮れから始めた。発熱はその後から観測され、一ヶ月以上たった現在も続いている。この発熱量は平均すると電気分解などに要した人力エネルギーの二～三倍。最大で約七〇倍に達したとしている。

同時に核反応が起きた有力な証拠になる中性子やトリチウムも検出できた。高橋教授は「従来の理論では考えられない大量の発熱だ。新しいタイプの核融合が起きているのだと思う」と話している。（1・28読）

黄金郷伝説“は真実

ペルーの北部、首都リマから八〇〇キロメートルの墳墓で、六つの王冠をはじ



め、羽の形をした王冠の飾り、神像、樂器、耳飾りなど金製の装飾品が大量に発見された。

日本、アメリカ、ペルーなど六ヵ国合同の「シカン文明学術調査団」（団長・増田義郎千葉大教授）が発見したもの。発掘作業は昨年六月に始め、一〇月から砂漠地帯のバングラーンデにあるワカ・デ・ロコと呼ばれるピラミッドわきの墳墓発掘にとりかかった。まず、一二メートル地下から冠を発見、その周辺から計四一点の装飾品が続々と出土した。シカン文明はインカ帝国の前の時代の



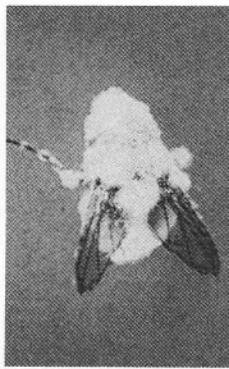
ロシアに雪男

ロシア北部のアルハンゲリスク地方で一月二十四日、灰色の長い毛に覆われ、赤い目をした人間そつくりの生き物が突然、道路建設中の宿舎に現れた。その足跡や毛が残されており、「雪男」がこの地方で本当に生存していることを示す証拠と受けとられている。

「雪男」が出現したのは同地方の都市カルゴボリから六キロの地点。兵士らの証言によると「雪男」は二人で、うち一人は身長三メートル近い巨人、もう一人の身長はその半分程度で子供のようだつた。子供の方は兵舎のベッドに四つんばいになつて入り込み、巨人はストーブの所に立つて「ウー、ウー、ウー」とつぶやくような声を出していた。兵士たちは最初、誰かが縫いぐるみを着ているのかと考えたが、あまりにしぐさが自然なため冗談とは思えなくなつた。まもなく二人の「雪男」は兵舎の屋根に飛び移った後、森の方向に去つて行つた。「雪男」は昨年末にも同じ兵舎に出現した。また同年夏には付近で熊に襲われた医学者がこの生き物に救出されているという。（2・2毎）

イエバエ駆除にカビが威力

殺虫剤しかなかつたイエバエの駆除に、カビの一種「ボーベリア・パッシャナ」が劇的な効果を發揮することが、茨城県養鶏試験場（同県茨城町）と農水省森林総合研究所（同県笠崎町）の共同研究で四日まで明らかになつた。カビの胞子を空中に浮遊させると、ハエが次々と死んでしまうという簡単な方法で、胞子は人間はもちろん、ほ乳類や鳥類にも害がない、家庭でも利用できる。現在、具体的な駆除マニュアル作りを進めており、（2・1読）



▲ボーベリア・パッシャナに感染して死んだイエバエ。体をおおつているのが体内から出てきた胞子。

まとまれば今年秋にも特許を出願する方針。カビなどの微生物を使つたイエバエの駆除は世界でも類がないという。

効果を確認したのは同試験場の藏本博士（久主任研究員）ら。平成元年春からイエバエ駆除の研究のため、ハエの増殖を続けていたところ、病氣で死ぬハエが続けとられている。

「雪男」が出現したのは同地方の都市カルゴボリから六キロの地点。兵士らの証言によると「雪男」は二人で、うち一人は身長三メートル近い巨人、もう一人の身長はその半分程度で子供のようだつた。子供の方は兵舎のベッドに四つんばいになつて入り込み、巨人はストーブの所に立つて「ウー、ウー、ウー」とつぶやくような声を出していた。兵士たちは最初、誰かが縫いぐるみを着ているのかと考えたが、あまりにしぐさが自然なため冗談とは思えなくなつた。まもなく二人の「雪男」は兵舎の屋根に飛び移った後、森の方向に去つて行つた。「雪男」は昨年末にも同じ兵舎に出現した。また同年夏には付近で熊に襲われた医学者がこの生き物に救出されているという。（2・2毎）

イエバエ駆除にカビが威力

殺虫剤しかなかつたイエバエの駆除に、カビの一種「ボーベリア・パッシャナ」が劇的な効果を發揮することが、茨城県養鶏試験場（同県茨城町）と農水省森林総合研究所（同県笠崎町）の共同研究で四日まで明らかになつた。カビの胞子を空中に浮遊させると、ハエが次々と死んでしまうという簡単な方法で、胞子は人間はもちろん、ほ乳類や鳥類にも害がない、家庭でも利用できる。現在、具体的な駆除マニュアル作りを進めており、（2・1読）

筋ジストロフィーは遺伝子欠損に関係

成人のかかる一般的な型の筋ジストロフィーがヒトの遺伝子の欠損と関係しているという研究結果が、六日発行の英科学誌「ネイチャー」にアメリカ、イギリス、カナダなどの研究者チームによって発表された。筋肉の消耗性障害の治療には現在有効な方法がないが、この発見を機に遺伝子を対象にした治療方法開発に道が開けると期待されている。

この病気は「ミオトニックジストロフィー」と呼ばれるもので、成人七五〇〇人に一人の割合で発生する。軽症の患者は発見がむずかしいため、実際の発生率は更に高いと見られている。この病気による死亡例のほとんどは五〇代から六〇代で、心臓や呼吸器の不全によつて亡くなっている。

この研究は英ウェールズ大医学部のH・G・ハーレー氏らが四年かけて行なつたもので、この病気につかっている人の第一九染色体上には通常より長い区切り目があり、この部分の長短によつて症状の軽重が現れるという。（2・6読）

日本版シャトル飛行実験に成功

文部省宇宙科学研究所は一五日早朝、鹿児島県内之浦町の鹿児島宇宙空間観測所で日本版スペースシャトル（宇宙往還機）の開発を目指すミニモデルの「有翼飛翔体」の飛行実験を行ない、成功した。実験は宇宙研が二一世紀の運用開始を目指して構想中の国産無人シャトル「HIMES（ハイメス）」計画の基礎実験に当たる。ハイメスは今の使い捨ての観測用ロケットに代わつて再利用できる往還機で、今回実験の飛翔体はハイメスの約七分の一のミニ版。（2・15読）

GAP短信

GAP NEWS

▼高松支部UFO写真展、盛況

既報のとおり高松支部は本年二月八日より一日までの四日間、高松市内の「ギャラリー宮脇」で第一回目のUFO写真展を開催。計三五〇名の入場者を得て、最初にしては成功裡に終了した。高松市はUFO問題に関心の強い土地で、しばしばUFOの目撃事件が発生する由緒ある土地。会場でのアンケートにも目撃体験例が寄せられた。詳細報告は本号三六六頁。

▼大阪支部特別月例会

大阪支部は來たる五月三日に尼崎市の市立産業郷土会館で特別月例会を開催し、久保田会長の講演と質疑等が行なわれる。これは支部大会に準ずるもので会員は誰でも出席できる。翌四日は神戸を主体に観光の予定。詳細は本号三七頁にある。多数出席された。

▼東京本部UFO観測会

日本GAP東京本部は來たる五月三〇日の夕方から第三回UFO観測会を実施する。場所は昨年と同じ神奈川県秦野市の板窓台地。昨年に引き続き多数の参加者が見込まれる。詳細は本号三七頁。

▼東京月例会セミナー

東京本部月例会セミナーは昨年九月より会場を東京タワー前の機械振興会館に移してから着実に定着し、毎回七〇名前後の出席者があり、和氣あいあいたる雰囲気のなかに熱気のこもったセミナーが行なわれている。昨年より

テレパシー練習の最高得点者一名に賞品を授与していたが、四月よりこれを中止し、そのかわりに得点を記録しておき、来年三月に一年間の得点数を集計して、最高得点者一名に賞状または盾を差し上げることにした。

月例会終了後は別な場所で楽しく夕食会を開催する。この場所は一定していないので当日告知する。

なお五月の東京月例会だけは第一日曜日から第二日曜日（一〇日）に変更するので注意されたい。機械振興会館は日曜日は正面玄関が閉じられているので、右横側面の入口から入ることになつていて。

▼今年度海外研修旅行

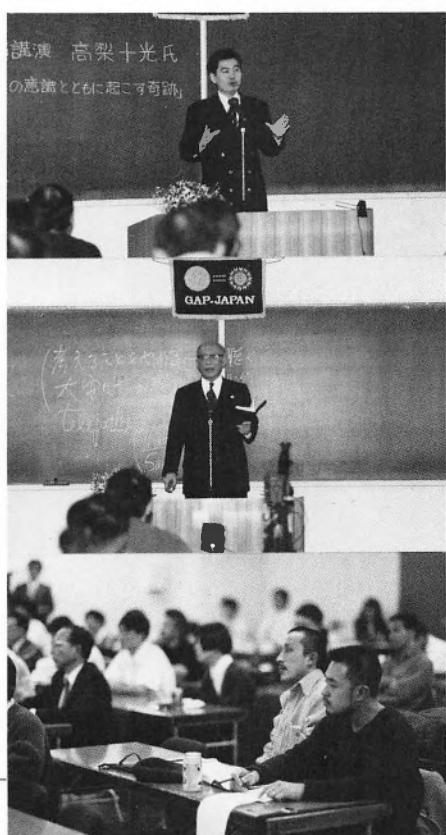
既報のとおり今年度はカナダ・チリ・イースター島の旅を予定していた

が、ワールドセブントラベル社から旅行日程とコースに関して変更が行なわれた。すなわちカナダを中止してアメリカのマイアミへ行き、次にチリのサンチャゴへ到着。ここを拠点にして南太平洋のイースター島へ飛ぶ。帰途は

アルゼンチンのブエノスアイレスに寄り、マイアミ経由で帰国する。地球を一周する以上の大旅行になり、日程も一五日間、費用も七〇万円台という豪華版。予告は本号二七頁に掲載してあるが、詳細案内書はワールドセブントラベル社へ申し込まれたい。

▼紀南会 月例会を再開

準支部の紀南会は代表の松口氏が長



▶上から一月の東京月例会セミナーにおける高梨十光氏の講演、久保田会長の講義、会場の出席者。

撮影／松村芳之

期入院のため月例会を長く中止していたが病状が好転したため本年二月より月例会を再開した。出席希望者は副代表の小川隆志氏宛照会されたい。電話は〇七三五-三二一-二八三四。

▼今年度支部大会

今年度は九月一三日に秋田支部が秋田市のアトリオンで支部大会を開催する。詳細は本誌次号に掲載の予定。多くの参加者が見込まれる。

▼東京月例会セミナー

東京本部月例会セミナーは昨年九月より会場を東京タワー前の機械振興会館に移してから着実に定着し、毎回七〇名前後の出席者があり、和氣あいあいたる雰囲気のなかに熱気のこもつたセミナーが行なわれている。昨年より

研修会として行なう。詳細は本誌次号に掲載。大盛況が予想される。

▼特別維持会員制

日本GAPは特別維持会員制を設けている。会員には久保田会長のエッセイ「意識の声」が毎月贈られる。これは素晴らしい内容だと好評を博している。特別維持会に関する詳細は日本GAP本部宛照会されたい。

▼本誌の書店卸しボランティア募集

本誌は全国の主要書店に卸されていながら、まだ開拓の余地があるので、卸し要員を募集している。詳細について日本GAP本部宛ハガキで申し込まねたい。案内書をお送りする。

「善」だけを探し求めて

テレノミー
★小川隆志

私は昨年七月二十四日に三重大学の講師としてお会いしました。この方は松口幸之助さん（日本GAP紀南会代表）の中学校時代の国語の先生だった方で、今は三重大学におられます。心理学の研究と障害者問題に取り組んでおられ、障害児を教えていらっしゃることです。この方はテレパシーの能力が現れており、言葉をしゃべることの出来ない子供の声が頭の中に響いてくるとのことで、その音声はカセットテープを早回ししたような感じだそうです。

その先生は小さい頃にご両親が亡くなられたのですが、お母さんが生前、「人はタマネギの皮をむくようにどんどんむいてゆけば、最後には善が残る」と言つておられたことを信じ、小さい頃から人々の善だけを見ようと必死に実行しておられたために、ついにテレパシーの能力が発現したのだろうと言つておられました。一回しかお会いしていませんので、詳しく述べませんが、アダムスキーフェルトは書けませんが、アダムスキーフェルトは真実であると痛感いたしました。

『生命の科学』に述べてある原因と結果の探求こそ私達がやらねばならぬ事だと思います。これはすごく忍耐力を必要とすることですが、頑張つて実践しようと思つています。

一ヵ月半ぐらい前、いつものように些

の上に自分を建てて直そうと思つています。現在この世界は大変に困難な問題を抱えており、将来に希望が持てないような状態です、また、これから数年間はいろいろな事が結果として現れるかもしれません、夜空を見上げれば、そこには大宇宙の広大な広がりがあり、私の目の前にも私の内部にも創造主が私達に学ぶ機会を与えてくれています。

この機会を与えられている以上、絶対に希望を捨てない、捨ててはいけない、捨てるとは出来ないと強く思った次第です。私は少しつづですが、心の調整が出来てきたようです。

今度こそアダムスキーフィルモーの哲学を真剣に学び続け、確固たる基盤の上に立つて、宇

馬鹿らしいわざ田舎で見つけて、うるさい。うにCDが三曲流れたら自動的に切れる。ようやくセツトしました。ところが三曲終わって時計をすぐ見たら一〇時三七〇三八分になつてゐるんです。一曲につき一分としても一八分ですから、本来一〇時二〇分には曲が終了しているはずです。さらに一月七日の昼、会社がお借りした写真を各企業に郵送するため、郵送料について書いてある『ぼすたるガイド』を探しましたが、所定の位置にありませんでした。つい前日の夕方、私自身がちゃんと置いたのに、どこかへ消えています。そのうち、ふと椅子を見ると、どういふわけか椅子の上に『ぼすたるガイド』があるじゃないですか！まるで「はいここにありますよ、使ってね」と誰かが

落ち着いたせいかもしません。一昨年は付き合っている彼を傷つけてしまつたことで相当に落ち込んでいました。五月でしたが、目が覚めたら心臓がひどく痛むんです。「昨日」仕事の上で上司のやつていることに反感をもつたからだな」と、痛みがおさまるまで様子を見ようと思いつ、仰向けのまじでじとしていると、付き合っていた彼の透明な姿が見えます。彼はニコニコしています。

私はだいぶ遅刻して電車に乗り込みました、が、東横線の『学芸大学駅』ホームに電車が滑り込んだときには、なんと彼が立っているのです。彼は大きく口を開けて驚いています。やはり彼は私を思つてくれていたのでしょうか。

細なことで「怒り」をあらわしてしまいました。すぐ反省して、なぜこのような想念があらわれるのだろう、今までたつても消えないのだろうかと考えましたするとやはり自分と他人との分離感が強くあり、人間同士を区別しているのです。つまり宇宙の一体性を破っているから、そのような怒りの想念があらわれるのだと気づきました。これはアダムスキーが著書の中で何度も書いていることです。「宇宙の一体性の中に生まれ変わろう」と思いました。私は『砂上の櫻閣』だったのです。

今、巨大な氷山が話題になっていますが、割れて碎けてしまう流氷の上に、いくら立派な家を建てても、いすれは粉々

ひとりで物品が動く現象
★大嶋順子

宇宙的成长を目指そうと決意しています

置いてくれたように――。

UFO Appears As I Want by Naohito Nakashima

想いどおりのUFO

中島直仁

実は私は平成三年五月頃からUFOに遭遇することが多くなり、一々二ヵ月に一回は必ず遭遇していますが、このことを皆様にお知らせせずにはいられなくなり、報告させて頂きました。

一冊の書物で強烈な感動

私は子供の頃からUFOに興味があり、「いつか遭遇したい」という気持ちを常に持つていました。書店に行つても最初に手にするのはほとんどUFO関係の図書でした。今もそれは続いているです。

そんなある日、ある書店で私を強烈に感動させた一冊の本と出会いました。が、それは『異星訪問奇談』でした。
(編注)これは秋山真人氏の宇宙的な体験を収録したもの。現在は絶版)

この書を読んで、この宇宙に地球人以上の平和精神を持ち、そして平和な社会を営んでいる異星人がいることを知り、「いつか遭遇したい」という気持ちをさらに大きくなっていました。

テレパシーで呼び続ける

それからの私は毎日真剣にスペースピープルの方々に長い時で一時間、短い時で一〇分間位かけて呼びかけ想念

を送るようになりました。これは平成二年五月頃のことです。

私はあきらめずに想念を送り続け、それは約一年間続きました。次のようないうフィーリングを感じました。この想念を送り続けていたのです。

私は対人関係が非常に悪く、心身ともに衰弱しています。この原因というのも私自身にあると思います。私は小中学校時代に一〇年近くいじめられた生活を続け、それからというものは人が信用できず、しかも他人に対して攻撃的になっています。

こうした心の波動が他人に伝わるのでしょうか、人と会えば必ずトラブルが起ります。嫌がらせを受けます。自分が持つている想念を清浄にし、それが他人に流れるようにイメージすれば対人関係はうまくいくのでしょうか、なかなか上手に出来ません。スペースピープルの皆様、どうかご指導をお願い致します」

このように続けて一年が経った平成三年五月五日のことです。

この日は宿直で夜中の午前三時頃、私は事務をとつていました。急に夜空が見たくなり、立ち上がって夜空を一分間ほど見ていました。

「一年経つてもUFOは来ない。やはりダメか」と思ったそのとき、私の目の前を銀色に光る物体がゆっくりと通過して行つたのです。

「何だろう? もう一度出現してほしい」と想念を送り続けました。

(3) 平成三年一月二八日午後一二時三

すると二~三分後に同じ物体が再び出現し、今度は私の前でジグザグ飛行をしました。「間違いなくUFOだ」という喜びと感動は言葉では表現できませんでした。

念するとおりに飛ぶUFO

それからというものは一々二ヵ月に一回UFOと遭遇しますが、それは今も続いています。これらが飛行機ではないと確信できる理由が一つあります。

その物体は私が念ずる通りに飛んでくれるのでです。

平成三年五月五日以降の遭遇経過は次のとおりです。

(1) 平成三年六月一五日九時四五分、都内新宿中央公園において呼びかけ想念放射を実施。一〇分後、UFOが出現。

「私の頭上を飛行してください」と想念を送ると、UFOは頭上に来て飛行し、「光線を放射して下さい」という想念を送ると銀色の光を発射してきた。

(2) 平成三年八月九日、同公園において午前一〇時〇〇分に呼びかけ想念放射。

一〇分後、都庁上空にUFOが出現。何度も旋回運動をしていました。

「スペースピープルの皆様でしたら南に進路を変更してみて下さい」と想念を送ると、UFOは公園の南方向へ飛び去つた。

(3) 平成三年一月二八日午後一二時三

〇分、事務室(千代田区三番町)の上空よりUFOを確認。私の前を通過した。

「高速でよく分からなかつたので、もう一度」と想念を送ると、五分ほど経つてから再びUFOが出現。今度はUFO特有のジグザグ飛行をし、曇り空の中を出たり入つたりの曲芸飛行を私に見せた。

(4) 平成三年一二月二日午前九時三〇分、UFOを呼ぶために新宿中央公園に入つた。想念放射前、なにげなく上空を見ると、葉巻型の物体が水蒸気のような物をまといながら、ゆっくりと飛行しているのを発見。その物体は渋谷区上空に消えた。母船のフィーリングを強く感じたので、その物体に対しても〇分呼びかけ想念を送った。母船は来なかつたが小型UFOが私の前を通過した。

(5) 平成四年一月一五日午後三時〇〇分、事務室より呼びかけ想念放射を行なつたら、約一分後、日本武道館上空にUFOが出現。銀色に強く輝きながらF0が出現。

「オレンジ色に光の色を変更して下さい」と想念を送つたが、UFOは二分ほどしてから消えてしまつた。しかし一分後、最初に見た場所から再びUFOが出現。今度はお願いしたとおりオレンジ色に光を変更して私の前を通過した。

(6) 平成四年一月五日正午、呼びかけ想

念は送つていなが、霞が関ビル上空にUFOが出現。葉巻型で巨大な物だった。母船のフィーリングを強く感じたので、「光を出して下さい」と念じると、母船は先端より銀色の強い光を発射した。これは今まで見たUFOのなかでは最も衝撃的なものであった。

以上のように私は頻繁にUFOを見るようになりました。見るたびに心はリラックスし、今、私はほっとしています。UFOは私に特殊な波動を放射しているのでしょうか、対人関係が良くなっています。きっと彼らは血のにじむような地球人救済活動を続けているのでしょう。私は彼らの行動に甘えすぎたと最近反省しています。

とにかく彼らはあらゆる地球人の命の恩人になることだと思います。スペースピーブルの皆様と、そして日本GAPの皆様の活動のご苦労が目に見えてきそうです。皆様の活動のますますのご発展をお祈り致します。

UFO Taken From Tokyo Tower
Photo by Hachiro Sasaki

東京タワーから撮影したUFO

都内の佐々木八郎氏はよくUFOを撮影する人。昨年8月のある日、東京タワーへ昇りたくなって展望台からUFOを撮影した。氏は衝動を起こしてよくここへ昇るという。

カメラ=オリンパスOM-40。フジカラーASA400。プログラムオート。



高松支部UFO写真展 盛況!

UFO写真展の開催地として必ずしも好条件がそろつてはいないが、とにかくやつてみようというわけで、本年二月八日(土)から一一日までの四日間、高松市内の「画廊ギャラリー宮脇」で日本GAP高松支部主催第一回展を開催した。

事前の宣伝活動で新聞、地元のテレビ放送局(西日本放送)でイベント情

報としてPRして頂いたこともあり、UFOに興味ある見学者が多く、ギャラリーは格調高い雰囲気に包まれた。四日間の入場者は保守的な土地柄のせいか三五〇名程度であったが、アンケートは七割の高い回収率があり、その中には驚くべきUFO目撃を報告したのもあった。一九八四年秋の高松円盤降下事件を追証する目撃があり、また三〜四年前に同事件の目撃場所とほぼ同地域の同方角で円盤の丸窓から光が洩れているのを見たという婦人もいる。

今回の写真展の開催により、会員同士の結束は一段と強化され、また会員外の人からの情報入手等により、一般への知らせる運動の重要性を再認識した。

さらにこの写真展には四国内はもとより広島、福山等から応援に駆けつけ頂いたし、各支部からご指導、ご援助をまわった。このような活動にこれまで周囲から応援をして頂くことは正直にいつて予想もしなかつたので、感謝の一語に尽きる次第である。

模索することも大切ではあるが、と

にかく実行し体験を積まないことは物事の真実が把握できないことを痛感し、今後の活動に対する態勢のあり方と決意の重要さを一同で語りあった。この種の活動につきものの批判等を恐れないこと、といつて猪突猛進において頂いたし、各支部からご指導、ご援助をまわった。このような活動にこれからどう周囲から応援をして頂くことはちいらず、状況を的確に観察しながら、知識的にスマートに事を運ぶようにし、今後さらに知らせる運動に邁進したいと思う。関係者の方々に衷心より御礼を申し上げたい。

日本GAP高松支部代表 関高明



★特別月例会

大阪支部のイヴェントに集合!

今年も久保田先生を迎えて盛大な特別月例会を開催することになりました。万全の態勢のもとにあたたかくお迎えしますので多数ご来場下さい。観光も楽しく行ないます。

日 時 五月三日(日)、午後一時より五時まで。

会 場 尼崎市立産業郷土会館、二階二号大会議室。

尼崎市大物町一丁目一番二号 ☎〇六一四八八一三五一。

※大阪梅田より阪神電車大物駅下車、北へ100メートル。

三〇〇〇円／夕食会 五〇〇〇円

翌日(四日)実施。神戸港巡り、新神戸よりロープウェーで布引公園ハーブ園見学。

約三〇〇〇円

宿 舎 会 費 三日夜のホテルをお世話します。場所は神戸市三宮。シングルのみ税込七九三一円。

注 意 五月第三日曜日の通常月例会は中止します。

★UFO観測会

日 時 五月一三日(土)夜から一四日(日)朝にかけて実施。阪急電車の岡本駅に二三日午後四時三〇分集合。GAP会員に限ります。観測場所は六甲山系芦屋ロックガーデン風吹岩の所。参加希望者は平塚宛連絡して下さい。☎〇六一四三六一三四七八

東京本部UFO観測会

また出るぞ!

昨年度UFO観測会の大成功に続いて今年も第2回テレパシーコールUFO観測会を開催します。会員の精神的結束による高次元な想念波動を放射して、お出ましを願おうではありませんか。今回は昨年以上の素晴らしい成果があがるかもしれません。多数ご来場を。

日 時	5月30日(土)夕方6:30に現地へ集合し、久保田会長の挨拶や注意事項の伝達等の後、7:00より観測開始。9:00終了。
場 所	昨年と同じ神奈川県秦野市柄窪(とちくぼ)の高台。
参 加 費	不要。参加資格は日本GAP会員またはその家族知人に限る。
申 込	参加希望者は来る5月25日まで(必着)にハガキで「UFO観測会案内書、送れ」と記したハガキを日本GAP宛送られたい。折り返し参加票、注意書、地図等をお送りする。但し昨年度観測会時に配布した地図を所有している方は「地図不要」と併記する。
宿 舎	昨年は秦野市のホテルを斡旋したが、今年は事情により斡旋をしないので、各自でホテルを物色して予約されたい。

George Adamski and Space Brothers
by Alice Pomeroy / Translated by Hachiro Kubota

ジョージ・アダムスキート異星人

★アリス・ポマロイ／久保田八郎訳

この記事はアダムスキート晩年最後の高弟として親しく薰陶を受けたアリス・ポマロイ女史が本誌の要請により執筆したもの。あらためてアダムスキートの人物像と異星人問題の実態を浮き彫りにした佳編。二回に分けて連載。

ベトナム戦争に関する秘話

アダムスキートが一九六五年四月に亡くなる前に、彼のために最後の講演会が東部のあちこちで開催されたのですが、その頃、ある講演会でベトナム戦争に関して一つの質問が出されました。アダムスキートはそれを次のように説明しています。

「スペースブーラザーズはベトナムの状況を知っていた。もしブーラザーズがいなくて、この地球にさほどの関心を示さず、ただ傍観するのみであつたならば、おそらく、私たちはもう一つの世界大戦への道を歩んでいただろう」

アダムスキートは語り続けます。

「実は、一九五六年にこんなことがあつたんだ。

当時、ベトナムは極めて不穏な状況

にあつて、ほとんどのアメリカ国民は知らなかつたのだが、大戦争勃発の兆がすでに、その地域の紛争に深く足を突つ込んでいたことは言うまでもない。

そんなある日、私は休暇中のある空

軍将校（訳注：原文からは“飛行機産業の重役”とも解釈できる）とたまたま話す機会を持った。そのとき私はカ

リフォルニア州のビッグベアレークという避暑地のモーテルに宿をとつてい

たんだが、朝目を覚まして外に出たと

き、隣の部屋に泊まっていた紳士とば

つたり顔を合わせた。挨拶を交わした

後で、その紳士は言ったものだ。「いま

釣りに行くところですが、それができ

るのもあと二日しかありません。もうすぐ釣りなんかしていられなくなりそ

うなんです」

私がその理由をたずねると、彼はまず自分の職業を告げてから、三日後には第三次世界大戦が勃発すると告げられていることを私に洩らしたんだ」

アダムスキートは続けました。

「ちょうどその頃、フランスに一機の宇宙船が飛来して、その国の政府高官たちにあるメッセージを渡して行った。その宇宙船は鉄道の線路上に降りたために、あちこちの電気装置類から火花が飛んで、多くの人々を驚かせたらしい。スペースピープルは高官たちにメッセージを渡すや、すぐにその場を離れたんだが、彼らの乗つたその宇宙船は森林地帯の上空を飛行して行った。そして、ある時点で突然その姿を消したという。それを目撃していた付近の農民たちは、鉄砲やら熊手やら、その他武器になりそうなあらゆる物を手

さて、スペースピープルからのメッセージを手にした政府高官たちは、「すぐに各国に連絡を取り、緊急会議を開催しました。その結果、九大国の高官たちが速やかにフランスに集合した。ベトナムでの戦闘プランは見直されねばならない。それが動き出してしまえば、もはや後戻りはできない。彼らの警告を受け入れるべきだ。それが会議の結果だつた。

ケープカナベラル基地の場合と同様、ブーラザーズは、そのときも見事に地球を救つてくれたことになる。とにかく彼らは、私たちが致命的な状況に陥ることのないよう、ときには直接的に、またあるときには間接的に、私たちに對して、可能な限りの援助の手を差し延べてきているんだよ」

もし私たちが、この世界の歴史を注意深く観察するならば、これまでに起つた戦争のほとんどは、混乱した経済、つまり、景気の停滞、失業の増加とに、すぐ気付くはずです。戦争といふものは、皮肉にも、経済を大いに刺





▲最近のアリス・ポマロイ女史。メイン州ウェストニューフィールドの自宅前にて。

撮影/パメラ・ロス (今年2月3日)

激し、失業問題の解決に大きく貢献するものなのです。

戦争よりも宇宙開発が救いになる

ただ、アダムスキーも参加した第一

次大戦後の不景気は、幸運にも自動車

とラジオの隆盛によって救われました。
しかしながら、やがて一九二九年に再び不景気の波が襲ってきたときは、
その救い主となり得るものは、一つも存在しなかつたのです。特にそれは、全世界を巻き込んだ大恐慌でした。そこで私たちは過去のパターンをまたも

や繰り返し、あるものに向かって一直線に進んで行ったのです。何に向かってでしよう？ 戦争です。

戦争は大きな破壊を生みます。その後では当然、莫大な量の復旧作業、再建作業が必要とされます。その結果、経済は活気づきます。しかしそれも長続きせず、やがてはまた次の新しい不景気が訪れる事になります。実際に忌まわしいサイクルです。

こんな理由で人々が戦争を意図的に起こし、自分たちの仲間を殺し続けてきたなどということは、考えるだけでも恐ろしい話ですし、とても信じたくない話です。でも、アダムスキーは語っていました。もちろんそれは、ほんの少数の者たちにしか洩らされませんでしたが、この忌まわしいサイクルを回転させようとしているのは、金融家たち、多くの富を蓄えた者たち、大きなパワーを手にして他の人々の上に君臨している者たちにほかならない、といふことを。

しかしアダムスキーは、私たちの未来に大きく貢献し得る、あるアイデアを持つていました。

「もし私たちが、経済活動の拠点を地上から宇宙空間へと転じたならば、以後この世界は、第一次大戦後に自動車の隆盛とともに手にしたのと同じような状況を、延々と手にし続けることになるだろう。多くの宇宙探査活動が必要とされ、人々はその活動に忙しく携わ

ることになる。当然その活動には多くの機材や物資が必要とされ、その生産のためにも、人々は忙しく働かねばならない」

彼の顔は生き生きと輝いています。「しかも、そのとき私たちは、破壊に向かってではなく、実に建設的な目的に向かって進んでいるんだ。眞の文明開化に向かってね！」

そして、宇宙を目指すプロジェクトには終わりというものが存在しない。達成すべきことがあとからあとから出てくるんだ」

そして最後に、彼はこう言つて話を締めくくりました。

「もし私たちがその道を選んだとしたら、そのとき私たちは、この世界でこれまで人類が下したいかなる決定よりも、遙かに素晴らしい決定を行なったことになる」

ブライアーズは、私たちが宇宙に飛び出すことを、長年に渡つて願い続けてきました。そして、私たちには想像もつかないほどの、実際に様々な手段を駆使して、私たちをずっと援助し続けてくれているのです。その一環として、彼らは、私たちのあらゆる建設的な活動にひつそりと関わっています。誰にも気付かれることなく、私たちに混じつて様々な仕事を従事しているのです。他の人々のためにそんなことができる地球人が、いつたいどれほどいるでしょうか？」

スペースブールの絶大な援助

かつてアダムスキーは、レナード・クランプという英国人科学者と会見したときのことを話してくれました。英國政府のために働いていた科学者で、「宇宙・重力・空飛ぶ円盤」の著者でもある人物です。

アダムスキーは言っていました。

「彼（クランプ）は今、研究所で数人のスペースピープルと一緒に働いている」と語っていた。私は彼のその言葉を信じるね。彼はウソをつきそうな人間に全く見えなかつたからね」

さらにアダムスキーは、もう一つ、同じような話をしてくれました。ニューヨーク州バッファロー市での講演の中です。

「ある日私は、ドイツ人のある偉大な科学者にお目にかかり、親しく会話を交わしていました。テーブルに座り、ビールを飲みながらの会話だつたのですが、そのとき彼は、私にこう耳打ちして來たのです。『実はね、ジョージ、私たちがこれまで成し遂げてきたことは、私たちの力のみで成し遂げ得たことは、一つもないんだ。私たちはずっと援助されてきたんだ』『ほう、誰から？』

私はたずねました。

するとその科学者は、

『君はもう分かっているはずだ』

そう答えたのです。

つまり、その科学者はアダムスキーに、「自分たちはスペースブールの援助を受け続けてきた」と語ったのです。

（訳注）右の科学者はヘルマン・オーベル教授。

アダムスキーはまた、近くにいた私たちにこんなことも話してくれました。

「実はね、私たちもすでに、物凄い科学的進歩を遂げているんだ。ただ、安全

保障上の問題から公表が押さえられていることが多い。それらの内容を知られたら、まず誰もが驚くだろうね（当時はまだ冷戦の最中で、不安定な停戦があちこちに存在していた）。

でも、いつ他の国から攻撃を仕掛けられるか分らないといった不安に満ちた今の状況下では、それらの内容が公表されることは決してないだろう。ただし、そんな状況もそろ長くは続かな

いような気がするけどね。一〇年もしら、それらの内容が少しづつ表に現れてくるんじやないかな」

彼の話は続きます。

【例え、私たちはずでに、家中の埃を掃除的に取り除くことのできる技術を開発している。その技術を用いると、家の中でこのように埃の粒子群が飛び回ったりするのを、もう私たちは見なくてすむことになるんだ】

そう言いながら彼は、部屋の中を浮遊する埃の粒子群を、感慨深げに眺め

ていたものです。思うに、そのとき彼は、かつてプラザースの宇宙船内から

眺めたあの躍動する粒子群、つまり、「宇宙のホタル群」のことを思い浮かべていたのではないでしょうか。彼は埃の粒子群という言葉を、例え話しの中などでもかなり頻繁に用いていたものでした。

アダムスキーはまた、近づいていた私たちにこんなことも話してくれました。

【それから……】

アダムスキーが続けます。

「私たちもすでに、メスなどの刃物類を使うことなく手術を行なうための原理も理解しているんだ。今はまだ刃物を使っているから術後に傷が残ってしまふだろう？でも、その原理を利用すれば、一切傷が残らないんだ。

さらに私たちは、この地球上で肉体の健康を維持するための遙かに効果的な方法についても、すでに知っている。それが発表されれば、まさに、現代の奇跡と言われるだろうね。

科学は、私たちが眠っている間にも着々と進歩を続けてきた。その中の一つは、彼らの貢献は計り知れない。それは私たちだけの力で成し遂げてきたことは決してないんだ。本当だよ！」

【ラザーズの来訪に対する喜びとともに、彼らの援助に対する深い感謝の意をその表情にじませながら、アダムスキーリは熱っぽく語り続けます。

「彼らがどんなに多くの援助をしてくれているかを、もし人々が知つたならろん様々な憶測が飛び交いました。そしてこの事件のあとで、アダムスキーは、ある政府高官から手紙を受け取つ

まずいて、彼らのこれまでの努力に対して、最大の敬意と感謝の意を表すだろうね」

【ラザーズは、とにかく様々な形で私たちを援助しているのです。そしてそれは、私たちの想像を遙かに越えたもののようにです。

消えた空軍飛行兵

訓練飛行中に三人の空軍飛行兵が消えてしまったという有名な話があります。彼らはパナマ運河流域のフォート・アマドールを出発してワシントンD.C.の空軍基地に到着するや、そこで訓練用戦闘機USA F3Oに乗り換え、三時間分の燃料とともに訓練飛行に飛び立ちました。しかし、それから六時間が経過したというのに、その訓練機は帰還しません。基地内には重苦しい空気が流れています。

【とそのときです。管制塔へのいかなる通信もないまま、その訓練機が突然帰還して来たのです。でも、何か変であります。その飛行機は、着地後の滑走を全く行なわなかつたのです。

関係者たちがおそるおそる近寄り、中を見ます。飛行兵たちの姿はどこにも見当たりません。そしてもちろん、燃料タンクは完全に空っぽでした。

【この不思議な事件に関しても、もちろん様々な憶測が飛び交いました。そしてこの事件のあとで、アダムスキーは、ある政府高官から手紙を受け取つ

ています。事件の顛末を記し、それに関する彼の見解を求める手紙でした。

それに対してアダムスキーは「おそらく、飛行兵たちを保護したスペースピープルが訓練機のみを戻してきたのだろう」と書き送りました。するとその政府高官は、再びアダムスキーに手紙をよこし、自分たちも全く同じ意見だと伝えてきたそうです。そのやりとりが公表されることは、もちろんありませんでした。

プラザーズは、もしも燃料が切れて久しい訓練機とともに帰還したならば、彼ら（飛行士たち）がどんな扱いを受けることになるかを充分に認識していたはずです。彼らの話を誰が信じただしよう？ 彼らはおそらく、嘲笑され、罵倒され、もしかしたら、裁判にかけられ投獄されるといったことにさえなつていたかもしれません。そこでプラザーズは飛行士たちにある選択の機会を与えたのです。基地に戻るか、それとも、彼ら（プラザーズ）のところに留まるかの選択です。

これまでの歴史の中で、プラザーズたちは、この他にも多くの地球人を様々な難事から救い、保護してきたようです。突然不思議な失踪を遂げたり事故に見舞われたりして、すでに死亡したものと推測されている人々の中には、彼らに救助され、以後彼らとともに暮らすようになつた人々が、決して少くないといいます。おそらく、地

球の宇宙飛行士たちが宇宙空間で災難に見舞われたときにも、プラザーズは可能な限り救助の手を差し延べているはずです。

プラザーズは、私たちの活動を実際に観察し続けているのです。それ一つだけをとっても、彼らが人的資源、時間、エネルギー、装置類を駆使して、私たちのためにどれほど多くの労力を費やしてくれているかが、よく分かると/or>いうものです。

また、これもアダムスキーが語ったことです、プラザーズはすでに別の太陽系内で人類の居住が可能となつたばかりの新惑星を発見しているということです。さらに、すでに彼らは自分たちの惑星から志願者を募り、その志願者たちを、必要な機材や物資群とともに、その新しい惑星に送つているということでした。そこに人類のための新しい社会を建設するためです。

▲ジョージ・アダムスキー
グレン中佐も見た宇宙のホタル火

は、私たちの心をとてもなごませるとともに、大きな希望で満たしてくれたのです。

「私の講演の中でアダムスキーは、そのときは、円盤が私を母船まで連れて行つてくれました。そしてその中から、私はある現象を目撃しています。このことは、一九五五年に出版された私の著書『宇宙船の内部』（訳注：中央アート出版社発行、新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に収録）の中でも触れたことです。確かに、（原書の）七六頁だつたと思ひますが、そこで私は、真っ暗な宇宙空間で目撃した『ホタル現象』について述べ



いるかも知れないのです。もしそうであれば、地球の人類もすでに宇宙に飛び出して彼らの活動に参加しているということになります。

それはもちろん、私たちの住むこの家族の真の一員とするためには、まだまだ多くのことがなされねばなりません。でも、アダムスキーの語った次の言葉

ています。それはまるで無数のホタルが光を発しながら様々な方向に動き回っているかのような光景でした。

さて、それから七、八年が経過した今、ジョン・グレンが大気圏外を旅しました。そしてそこで彼は全く同じ現象を目撃し、伝えてきました。その描写に用いられた言葉も私のものとほとんど同じでした。

〔訳注〕一九六一年二月二〇日、アメリカ海兵隊のジョン・グレン中佐はフレンドシップ7に乗り込んで最初の有人飛行を行ない、地球を三周して着水しました。記者会見で彼は大気圏外の暗黒の空間で無数の「ホタル火」を見たと発表し、アダムスキーの記述と一致した（というので大問題になつた）

人々といふものは、真実を伝えられても、なかなか信じようとしないものです。そして、それが真実かどうかを確かめようとして、実に莫大な費用を費やすのが常です。

彼らは私からある真実を伝えられました。しかも、ただで――。しかしその真偽を確かめるために、なんと五千万ドルもの大金を費やしてジョン・グレンを宇宙空間に送ったのです！ 私達がいかに疑い深い生き物であるかを如実に示す一例です。

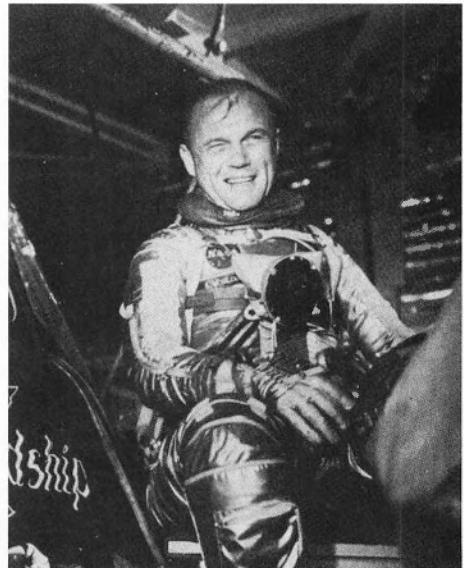
まあ、それは冗談だとしても、いざれにせよ、ジョン・グレンは私と全く同じものを見て、それを全く同じように報告してきたのです！」

ささらにアダムスキーは話し続けます。
「かつては私の話を誰も信じませんで、もちろん極めて少數の人々を除いてです。でも、今やそれも徐々に変化しつつあります。今や私はともかくにも証拠を手にしたからです。ほんの少しの、しかし実に確かな証拠をです！」
そして彼の話は、最後の詰めに入ります。

「ジョン・グレンは、あの現象を目撃し

てその報告をするために大気圏外に出ねばなりませんでした。では私はどうやってそれを目撃できたのでしょうか？ もし私がサイキック（心霊能力者）で、ここにいながらにしてそれを目撃できただとしたならば、私はまさに飛び抜けたサイキックです。あんなに正確に描写したんですからね。

でも違います。心配はご無用です。



▲ジョン・グレン中佐

科学的な立証が続出した

「空飛ぶ円盤は着陸した」（訳注）これも新アダムスキー全集第一巻に収録されている）の中でアダムスキーが述べた金星人との面会の事実もまた懷疑論者たちの格好の攻撃材料でした。

しかししながら、一九五九年一月になつて、金星の大気中における水蒸気の存在が、ある科学者たちによって確認されました。さらに一九六〇年二月には、米国ロケット協会の創始者エドワード・G・ベンドレー博士が、「金星は居住に適した素晴らしい惑星かもしれない」というコメントを発しています。

続いて、一九六四年一二月、ジョンズ・ホプキンズ大学の宇宙物理学者たちは、金星を取り巻く雲は、地球上空で見られるものと酷似した水晶（訳注）大気が〇度以下に冷却されたときにできる氷の結晶）群、つまり水によって構成されていると発表しています。

また、その研究に携わっていた同大学のストロング博士は、後にマリナー探査機による発見事に言及し、その探査機が収集した金星の気温に関するデータの解説は極めて不透明なものであり、全ての科学者がそれを受け入れてはいるわけではありませんと述べています。

近ではその大気中に二酸化炭素が含まれる酸素の源である水の存在に加え、最

れていることも確認されています。金星上に生命の存在する可能性を示唆するデータが次々と明らかになってきているのです。

また、アダムスキーは『宇宙船の内

部』の中で「月には大気が存在する」と語りましたが、これもまた、当時の人々にとつても信じ難いアイデアでした。ところが、一九五九年に月に到達したソ連のロケットは、月が“低エネルギーのイオン化された気体群の層”に覆われていることを示す情報を送り返してきたのです。ソ連の科学者たちは、それをとても大気に似たものだと結論付けたのです。そして今や、月に大気が存在することは全くの常識となっています。

さらに、月面の人工の構造物群を映し出した写真群が、NASAからも続々と公表されるようになりました。NASAが撮影した写真群に映し出されたそれらの物体を指差しながら、アダムスキーは、その形状からして、それらが自然の創り出した物ではあり得ないということを強く主張していたのです。

アダムスキーはまた、この太陽系のも、他のすべての太陽系同様一二の惑星が存在しているということを私たちに何度も説いていました。冥王星の外側に存在する一〇個めの惑星が発見されたというニュースが飛び込んできたのは、そんなある日のことでした。

た。彼の説明によると、「もう二つの惑星はそれよりもずっと遠くにあるため、地球からの観測でそれらを発見するのは相当難しいだらうということでした。

彼はまた、アステロイド帯についても詳しく描写しています。『さらば空飛ぶ円盤』(新アダムスキー全集第六巻『UFOの謎』)の中では、それを図示することで、より分かりやすい説明を展開しました。アステロイド帯とは、ご存知のように、太陽から四番目の惑星の外側、八番目の惑星の外側、そして最後の一一番目の惑星の外側に存在する粒子群の層で、それらには、太陽からの放射線を引きつけて加速する働きがあります。そして加速された放射線は、それらの層の隙間を通り抜け、より遠方の惑星群にも充分に到着し、それらの惑星に生命の維持に必要な光と熱とを供給しているということです。

また、私が今この原稿を書いている間にも、ある天文学者たちが、三万三千光年彼方の宇宙空間に、地球の一〇倍ほどの質量を持つ“奇妙な”新惑星を発見したというニュースが飛び込んで来ました。もしそれが確証されたならば、それは、私たちの太陽以外の星に何度も説いていました。冥王の周りを回る惑星の初めての発見といふことになります。その惑星はあまりにも遠方にあつて光不足のため、いかなる光学望遠鏡でも確認は不可能です。

れました。彼らは、アダムスキーのみならず、他の様々なUFO研究家たち、特に、宇宙の真実に気付いた、あるいは気付きつつある研究家たちを次々と訪問していたのです。彼らの意図はもちろん、真実が一般に洩れることを防止することがありました。彼らは研究家たちを訪問し、もし黙らなかつたならば恐ろしい結果が待つていうことをにおわせ、脅し続けました。

あるときアダムスキーは、彼らもス

ペースピープルではないのか、と尋ねられたことがあります。そんなとき彼

は、毅然として言い放つたものです。

「いいかい、まず第一に、スペーススピーピー

ープルは私達が真実に気付くよう注意を

促すために来ているんだ。その彼らが、

私たちがその真実を語ることをなんで

妨害するんだい？ 彼らがそんな馬鹿なことをするとと思うかい？ そんなこ

とはあり得ないじやないか。絶対に違

う！ 私たちを黙らせに来る連中は絶対にスペーススピーピー

ープルではない！ 彼

らは間違いないこの世界の人間だ。彼らは私たちを黙らせるためには手段を選ばない。恐ろしい脅迫をしたり、大

金を積んだり――。それで黙つてしまつた人々が決して少なくないんだ

ちなみに、かつて真実を堂々と口にしていたある海軍将校の場合は、彼ら

によって六ヶ月間も海邊のある場所に幽閉された結果、神経がボロボロになつてしまい、それ以後、ウサギのよう

すさまじい妨害と アダムスキーの不屈の信念

アダムスキーは、彼の主張する真相に異議を唱えるのみならず、それらを自由に語ることさえ妨げようとする人々により、長年に渡つて常に苦しめられ、悩まされていました。その良い例が、あの“メン・イン・ブラック（黒ずくめの男たち）”による脅迫です。彼らは、真っ黒の服を着、真っ黒の帽子をかぶり、真っ黒の乗用車に乗つて現

れるました。彼らは、アダムスキーのみならず、他の様々なUFO研究家たち、特に、宇宙の真実に気付いた、あるいは気付きつつある研究家たちを次々と訪問していたのです。彼らの意図はもちろん、真実が一般に洩れることを防止することがありました。彼らは研究家たちを訪問し、もし黙らなかつたならば恐ろしい結果が待つていうことをにおわせ、脅し続けました。

あるときアダムスキーは、彼らもス

ペースピープルではないのか、と尋ねられたことがあります。そんなとき彼

は、毅然として言い放つたものです。

「いいかい、まず第一に、スペーススピーピー

ープルは私達が真実に気付くよう注意を

促すために来ているんだ。その彼らが、

私たちがその真実を語ることをなんで

妨害するんだい？ 彼らがそんな馬鹿なことをするとと思うかい？ そんなこ

とはあり得ないじやないか。絶対に違

う！ 私たちを黙らせに来る連中は絶

対にスペーススピーピー

ープルではない！ 彼

らは間違いないこの世界の人間だ。彼

らは私たちを黙らせるためには手段を選ばない。恐ろしい脅迫をしたり、大

金を積んだり――。それで黙つてしまつた人々が決して少なくないんだ

ちなみに、かつて真実を堂々と口に

していたある海軍将校の場合は、彼ら

によって六ヶ月間も海邊のある場所に

幽閉された結果、神経がボロボロになつてしまい、それ以後、ウサギのよう

に押し黙ってしまったということです。
「私はどんな脅しにも負けなかつた」と
アダムスキーは言つていました。

「これまで私は、常に眞実を語り続けて
きました。だから今でも彼らは私との接触
をやめないのだ。そしてこれからも私
を通じて多くの情報が人々に伝えられ
ねばならない。私はまだ話し続け
るよ」

彼は大いなる勇氣に満ちた人物でした。

「私はメン・イン・ブラックの意図を知
り抜いている。彼らがなぜ私に付きま
とうのかを証明し得る、新聞の切り抜
き記事その他の情報群が満載されたス
クラップブックを、私は今、六冊も持
っているんだ。彼らはとにかく執拗に
接觸して来る。以前は今よりも遙かに
酷くて、私にとつてもそれは大きな恐
怖だった。でも絶対に服従はしたくな
い。それである日『ここはアメリカ合
衆国なんだ!』と自分に言い聞かせて
弁護士に相談したのだ。そしたら彼が
いいアイデアを出してくれた」

アダムスキーに対する激しい攻撃を
仕掛けて来る人々は他にもたくさんい
ました。でも彼がそういう人々に対
して腹を立てたりすることはほとんど
ありませんでした。それの人々の眞
の意図を充分に理解していたからです。
その種の敵対者たちに対して彼は常に
寛容と思いやりを忘れませんでした。
彼は言つたものです。

「彼らは自分で正しいと思つてゐるこ
とをしてゐるだけなんだ。そしてそれ
はとても大切なことだ。やがて彼らも
いつかはより大きな理解を手にするこ
となると思うよ」

しかしながら、その彼にとつても、
メン・イン・ブラックは大きな脅威で
した。彼らは、自分たちの意図に従わ
ないアダムスキーを、直接、あるいは
人手を使って、あわよくば殺しかねな
いといった状況だったのです。ただ彼
らも、アダムスキーが問題を弁護士の
手に委ねて彼らと対決する決意、つま
り、法廷闘争に持ち込む決意を固めた
ことを知るや、それまでの戦術をや
やしくなるものに変更したようです。も
し裁判ざたにでもなれば、彼らの正体
が白日の下にさらされることになつて
しまうからです。

またアダムスキーは、プラザーズと
のコンタクト開始以来、FBI、CIA
A、空軍、國務省その他の政府関係情
報機関員からの接觸をも常に受け続け
ていました。それの人々との数多い
接觸体験から、アダムスキーは、後に
自身が名付けた『サイレンス・グル
ープ』という一団には、実に多くの顔あ
るいは姿があるということに気付いて
いました。正体のつかめない組織群か
らの接觸や妨害も決して少なくありませんでしたし、さらに彼は、一般的の政
府関係情報機関よりもはるかに秘密裏
に活動を開拓している、ある国家的組

織の存在にも気付いていました。
一九五九年に敢行した世界講演旅行
の中、アダムスキーはそのサイレン
ス・グループによる妨害をあちこちで
受けています。オーストラリアではひ
どい混乱を体験しましたし、フィンラ
ンド行きは中止をやむなくされました。
さらには、彼がよく口にしていたこ
とですが、スイスでは死の危険にさえ
遭遇したようです。もしプラザーズの
援助がなかつたならば、自分はあのツ
アーから『棺オケの中に入れられて』
帰国することになつただろう、とさえ
言つていました。

そのときには、さらこう続けた
のです。「イエスが両替商たちを寺院
から追い出した事実に関しては、これ
まで多くの人々が語つてきただれど、
その両替商達のその後のことに関して
は誰も語つたことがないよね。実は、
彼らは今でもまだある所にたむろして
いるんだ」

アダムスキーが言うには、その後彼
らはスイスに集結して、いまだにこの
世界の金融市場を操つてゐるというこ
とでした。

反対派の実態

そして彼は、今ではかなりの人々が
察していることですが、この世界の主
要國家のほとんどが様々な情報機関群
を持ち、それぞれの国のために活動を
続けてゐるのはもちろんのことだが、
する人々は、眞実が洩れることを喜

それらの国々には別の情報機関群も存
在し、それらの機関群は国家のために
ではなく、国際金融組織のために活動
している、とも語つたものです。もち
ろんおおやけの席ではなく、親しい
仲間たちのみを前にして語つたことで
す。

今や眞のUFO研究家の間では周知
の事実ですが、彼はまた、この世界の
エネルギー支配者がスペーススピーブル
に関する眞実、特に、彼らの宇宙船の
飛行原理に関する眞実が知れ渡ること
を極度に恐れてゐるという点にも触れ
ていました。もしスペーススピーブルの
宇宙船が自由エネルギーを用いて航行
するという事実が公表されたならば、
彼らが牛耳つてゐるこの世界の経済が
多方面において大混乱に陥るであろう
ことは疑うべくもありません。

もう一つ、アダムスキーがよく話
ていたことは、サイレンス・グループ
は、心靈的あるいは神秘的な主張を繰
り返してゐる人々に対しては全く干渉
しないということです。彼らは自分た
ちの言いたいことを自由に話すことが
許されてゐます。ときにはそうするこ
とが奨励されたりさえします。結局、
事実ではないこと、あるいは、歪んだ
事実を主張する人々は、やがて自分た
ちの手で信用を失うことになるからで
す。



ばないサイレンス・グループの圧力によつて沈黙を強いられることになります。そこでアダムスキーやは、よく言つていたものです。

「私の持つている情報は、どうも正しい私を脅かしたりする必要など全くないもののがだらね」

もし私たちが充分に賢ければ、UFOあるいは異星人に関する何らかの情

▶ジョージ・アダムスキーや。右はベルギーGAP主宰者であったメイ・モルレ女史。現在も老齢ながらオーストラリアで健在。

報に接した場合、この公式を用いることで、つまり、その情報がどんなところから、あるいは、どんな経路によつてもたらされているのかを考慮するところで、その情報の信憑性をかなりのところまで自己判断できるはずです。

現在、異星人の存在、および来訪の情報に関心を示す人々の数は、確実に増加してきており、その情報が常識的、論理的に納得し得るものであつた場合、それを事実として受け入れる人々の数も、日増しに増加傾向をたどつています。しかし、もしその情報が心靈的あるいは神秘的なグループを通じてもたらされたものであつたならば、それにいつまでも大きな興味を示し続ける人々はほとんどないと言つてもいいでしょう。当然サイレンス・グループはこのことをよく知つておらず、様々な情報に注意深く目を光らせていました。

多くの人々が正しい理解とともにUFO群に思いを馳せたならば、そのときあの「両替商」たちの基盤は大きく揺らぐことになります。それで彼らはそれを恐れているのです。

感情、ましてや戦争のアイデアなどは到底入り込めません。一度宇宙にしつかりと目を向けた若者たちは、血塗られた戦場などに送られることを、毅然として拒否することでしょう。

ギャロップ社が行なつた最近の調査では、UFOの存在を信じないアメリカ人は、全体のわずか三〇パーセントのみであるという結果が出ています。

私たちの主張を一部のみであれ受け入れつつある人々の数は、まさに増加の一途をたどつていると言えるでしょう。もはや大衆からUFOへの関心を取り扱うことは不可能な段階に達しました。アダムスキーや私たちに伝えた真実は、プラザーズや彼らの宇宙船群の助けを得て着実に人々の間に広まりつつあります。

ただ、私たちにはまだ警戒しなくて

よいといふことがあります。私たちは、はならないことがあります。私たちは、すべての異星人が高貴な異星人ではないという事実にも目を向けねばなりません。かつてアダムスキーやは次のように話をしてくれました。

あるときアダムスキーやは、エジプトのあたりで行なわれたある考古学研究のための発掘調査に関するテレビ番組を見ていたのだそうです。

アダムスキーやが私たちに言いました。「あれは、五千年から二万年ほど前に建造されたものだつた。彼らが発掘したその建物は金星人たちの寺院だつた。それは、かつて金星人たちが地球上にや

友好的な異星人たちに思いをめぐらしつつ空を見上げると、人々の心には、この地球に平和と幸せをもたらすべく活動する彼らの姿が生き生きと描き出されることになります。そこには、自分の仲間達に対する怒りや憎しみの

つて来て自分たちの惑星と同胞たちを敬つて建てたものだつたんだ。その寺院がどれほどの期間そこに建つていたか、あるいは、彼らがその寺院に礼拝しながらどれほど長く地球上に留まつたのかについては、まだはつきりしていない」

彼は続けました。

「とにかく、それはある一定期間、そこに建つていた。そして、発掘されたのはその建物の一部だつたんだけど、それは、ほとんど無傷の状態で残つていった。そしてそれは金星人たちがなぜそれを去つたかということを如実に示すものでもあつた。それは実は後からやつて来た某惑星人たちによつて破壊された金星人たちの寺院の残りの部分だつた。後に某惑星人たちはほとんどその真上に彼ら自身の神を祭つた寺院を建てている」

そして彼は私たちに警告したものでした。

「さて、そんな証拠物件が出現した今、君たちはどう思う？ 地球の各国政府が、宇宙の彼方からやつて来る連中のすべてが好意的ではないかも知れないと考えて、彼らに対して警戒心をいだくことも、ある意味では賢いと言えるんじゃないいか？ 事実、かつて起こつたことが今起こらないという保障はどうでもない。だから、政府が用心深い態度を取つているからと言つて一概には責められないと思うよ」

Letters

素晴らしい生命の科学

岐阜縣
力藤四子

一月一日の例会に出席させて頂いております。申しますのは昨年三月頃御縁があり、ある知人の方よりアダムスキー著「生命の科学」を拝借説し、あまりの内容の素晴らしさに感動致しました。

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。



活動化する技術

支那の政治

和がDAEで学ぶたのじ

私がGAPで学んだこと

GAPで学んだことに自己を客観見するというのもあります。第二次世界大戦では、

勇気と使命感には本当に「ガーン」ときました。

卷之三

卷之三

たので残部二冊と売上金を御送金致します。店長より毎号楽しみにして貰つていくる人がいると聞きました娘

る限り、かたよりがでてくるのでは
ないか、分裂感にさいなまれてしま
うのではないかと感じています。一

と異星人』は特に感動致しました。人類の愚かさとアダムスキーリの決して諦めない信念、自分自身をこの世

貴重な内容の本誌

てが喜びはあるようになれたらとのイメージがいつも湧いてきます。IMAで学んだことに手の立場になって考えて、人の話を聞くといふばかりです。自分で自分自身

U-1問題での多くのお話を聞いて顶きましたので、どうぞおぎります。今後とも深遠なお話を元気で続けて下さいますように宜しくお願ひ致しま
す。

「生命の科学」で「改革中

三種類

昨年八月頃より夜空に時折光体を見るようになりました。最初は天空にホタルが舞うような形でしたが、しだいに流星のように、しかし流星よりは遅く飛行機よりは速い速度で水平に飛ぶ光体となり、一昨年一〇月一九日には「く」の字型に飛ぶ光体を見て驚きと感激でいっぱいでした。昨年に入つてからは光体が金星よりもずっと大きくなり、最近では六月二六日（水）にほぼ満月の月明りの中で霞のような薄い雲のベールの中を光る真珠玉のようになつて飛ぶ光体を見て唯々感激してしまいました。私

いや一年間という期間はUFOらしい目撃または明かにサイン等としかいいようがない目撃等が多くなつてゐるようです。一人一人の意識の変化によるものであると思われるのですが、いずれにしましても九〇年代に入つてからというもののUFOの活動や国内のスペースビープルの活動がいつになく活発になつてゐるのではなく、昨今であります。

今後もGAP活動をベースにささやかながらも支部活動を継続させて頂きますので宜しくお願ひ致します。

著「生命的の科学」を拝見説し、あまりの内容の素晴らしさに感動致しました。この地球上に誕生して四七年(私の年齢です)、何かと過酷な人生の中で迷いながら人間とは、魂とは、生命とは、宇宙とはなど常々思ひあぐねておりましたことの解答が、まことにシンプルな、まるでもつれた糸を解くよう平易な文体で表現されていたからです。地球上にこのような素晴らしい書物が存在することをなぜもっと多くの人々が知ろうとしないのでしょうか。これは今の私の正直な疑問です。

活発化する支部活動

名古屋支部代表 林 国宣

名古屋月例会ですが支部としては、最近一〇名前後の方々が来場され以前よりは多く出席されてきました。また一人一人の自主的な姿勢が以前よりもはしっかりとまた強くなっています。中央アート出版社刊の新アダムスキーワーク全集の効果もあってか全集を見て入会された方も最近二、三名程度来場された方やUコンを見て入会された方もある

私が二歳の入会でGAPとアダム・スキーを知ったのは二〇歳の頃でした。最初は宇宙哲学から受ける深遠さに絶対的な確信を持ち、私が本来求めていたものに出会ったたよに思いました。「宇宙の意識」という言葉に人生が前向きになり人類の進歩向上は個人の宇宙的な変化が必要なんだと今も変わらない思いです。物質ばかりを求めるも全体の中で悲痛な思いがある限り、物を得た人にとってはどこかに風穴があいた状態ではないかと思います。全体は一つ、どこも分離するものはないのなら、欠

す。そして一人で満足しないでこのアンバランスな感情をバランスよく保つために行動を次回に失ったマイナス感情を対人関係の中で暖かな調和の方向へ向ける努力をしていこうという意欲を持ちます。GAPの人たちは前向きで向上心に溢れた素晴らしい方々ばかりです。GAPの人は自己の内部にある宇宙の意識と一体となるための活動をしています。ですから欠点にも堂々と立ち向かい勇気を持って対面していくことが必要となってくるのでしょうか

心を支配させてはいけない」と少し言葉は違いますがこのような内容だと思います。

とにかく今は肉体の非宇宙細胞を認識しながら想観察をし、イメージ法で宇宙細胞を応援しています。この方法はかなり効果的で自分でも変化しているのが良くわかります。しかし肉体のプライドがかなり強いです。これを変化させるために肉体の創造された目的を理解し宇宙的な目的の方向に全身を向けようと思っています。「意志の力」で習慣的の想念に向いてしまう心を宇宙の因に

かく向げようとがんばっています。
良い結果が生まれましたらまた御報
告致します。

「意識の声」に感動

松口幸之助

先日もお手紙を差し上げましたが、久保田先生の「意識の声」の第一七号を改めて拝読させて頂きました。大変に感動した次第です。久保田先生の文を読みますと、いつも宇宙的なフィーリングが高まっています。不思議です。(編注)「意識の声」は久保田会長が特別維持会員に毎月配布しているエッセイ。

私も早く健康になつて社会で働いて私自身の活動をうんと高めてスペースアーチの方々とコントラクトするようになりたいと思っています。そして平和運動家になつて世界中を飛び回りたいです。平和運動家といつても大群衆の前で何かを話すのではなく、心身共に苦しんでいる方々を秘かに援助することなのです。日本GAPも宇宙的善良想急放射団として活躍することは大変に素晴らしいことだと思います。

私も早いもので三七歳になりました。歳相応の悟りも必要ですが、しかし私の人生はこれからなのでして、少々のことではへこたれないぞといいますか、これから頑張るぞという意欲はありますね。私の病気ですが早く良くなるのはこしたことではありませんが、「今治る時期ではない」という何かにコントロールされているように最近になって感じます。治る時期があつていつか元気になつて退院できる日が必ず来ると思います。私も頑張ります。先生のお体を大切

にして良きお年をお迎え下さい。

本誌の内容の素晴らしさ

岩手県 大沢 悟

心待ちにしていたUコソンが先日届きました。以前から考えていましたがUコソンに漢字を当てるなら「湧魂」です。なんとなくわかつて頂けると思います。どういう訳か前号と今号の間がとても長く感じられ、一月下旬が来るのを心待ちにしていたので一六号は特にとても新鮮に嬉しく読ませていただきました。

記事中秋山氏の言つてゐる「人間は創造できることがある限り生まれ変わること」という部分が非常に勇気が起つて深く素晴らしい感じました。GAPが何故一般的にテレビで紹介されないのでしょうか? 昨今のグームの宗教や能力開発ものの番組を見る度に思います。私などは会長のテレビ出演を待ち望んでいたのですが一般的レベルの低さがまだそれを許さないのでしょうか。先生がUFO関係の単行本を複数出されるのこと、社会に対する真実の波動のインパクトを放つのかと思うと楽しくウキウキしてきます。自分もがんばらねばと

勇気が湧いてきます。他人に頼るだけなく自分が自分の目的に向かってがんばる! という想が強く起きます。私はやるつもりです。全国の理解者の皆さん一人一人にお互いがんばろうといつたことです。ボマロイ女史の凄い秘話を交えての感動的な記事、これは庄巻でした。次号がまた楽しみです。また「ユーロン広場」の頁を読みますと私はふと気づいたのですが(今まで気づかなかったのがおかしいのかな?)、じ

つくりと一人一人の方の文を読んでいますと何といいますか本当に心の底からというか楽しく幸せを感じてゐるというか、そういうものが波動として感じられるようです。例えは

会員でも何でもない人がひょいとこのページを読んだとするとやはりここに載っている皆さん実にア哲学ア問題の真的理解者だと思います。また、感動しました。他の記事もすべて素晴らしいと思いました。(一つ一つ書いていたら長くなるので省略します)

これはお世辞ではありません。この

のような高度な燐然たる光輝を放つ冊子は他にはないのではないかと

か、「巻頭言こそ毎号これを読みた

のが為に送つて頂いているようなも

のです。多くの方がそうだと思いま

す。先生が益々お元気でこの聖なる

仕事を続けられますことを。(編注)久保田会長はテレビ出演依頼をすべて断つています)

偉大な想念の力を發揮しよう

仙台市 佐藤喜代子

春の花の便りもすぐそこまで来ている感じがします。先生のめざましい御活躍ぶりはUFO、宇宙哲学に関心のある者であれば周知のことであつたことは、いらつしやる惑星も

思つてですが、こちらの想念や万物を見透す眼で見ていらつしやる方々が存在するという事実を確かに感じました。

情報では知つているつもりでしたが、スペースアーチはどの位進歩しているのか分からぬといふ気がします。住んでいらつしやる惑星もございますが、ご苦労も並大抵でいるとき、その想念を送ればやさしく手を差し伸べて答えて下さる偉大な進歩を遂げられた方々がいらっしゃるのだと思います。それも最高の理解力を持ってです。私は確かに認識致しました。

アダムスキー氏は最終的な仕事の

よつとベンを取つてみたりました。笠原さんをはじめ、他の会員の方々にも大変お世話になりました。私が月例会に出席させていただくようになりましたから一〇年近くになりますが、参加する前と後ではこれまで違うものかとGAPの力に驚いております。私の場合、それはなんといましてもUFOの自爆です。

初めて東京総会に出席するという前日の晩、停止状態の星のような光体が突然動きだし、数回移動して消えました。そのとき、これがあの有名なUFOだなどすぐ分かりました。あれは間違いなく東京総会への祝福と激励の出現でした。スペースアーチの地球救済活動は私達が考えていた以上に真剣のようです。

その時を始めとして何回となく目撃いたしました。あるときは光の行列にも会いました。赤、青、オレンジ、黄、緑と、見かけ上、三メートルぐらいいは続いていたでしょう。あれは何だったのかなと今でも時々思うのですが、こちらの想念や万物を見透す眼で見ていらつしやる方々が存在するという事実を確かに感じました。

情報では知つているつもりでしたが、スペースアーチはどの位進歩しているのか分からぬといふ気がします。住んでいらつしやる惑星もございますが、ご苦労も並大抵でいるとき、その想念を送ればやさしく手を差し伸べて答えて下さる偉大な進歩を遂げられた方々がいらっしゃるのだと思います。それも最高の理解力を持ってです。私は確かに認識致しました。

(3)希望価格 程度。

宛名は、日本GAP「告知板」係

ために地球に遣わされたのだといふことをUコソンで知りました。地球の転換期ともいうべき時代に先生を通して学ぶことのできる私達は本当に幸運です。

GAPの教えには私達が現世において知らねばならない全ての事が含まれているように思います。また、地球の二面性に驚きのほかありませんが、私達は冷静かつ賢明に事の成り行きを察知する必要がありますね。想念の力は偉大なのですから、個人人が平和的、宇宙的な想念を放ち、一人から二人へ、二人から〇〇人へ、一〇〇〇人へと波動を広げて、近未来において金星のような惑星に地球を成長させることが出来たらどんなに素晴らしいことでしょう。先生にはますますお元気で今後ともよろしくご指導のほどをお願い申し上げます。

本誌バックナンバー掲載記事目録

*印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛て送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.116

平成4年1月25日発行 ￥900

- 地球救済活動を続ける異星人——秋山真人
南フランスの不思議なコンタクト事件——中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法——テッド・オーウェン
病気治療の宇宙哲学的応用——高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ——久保田八郎
江東区上空のUFO——森田久恵
南九州支部からの声——曾我部勇人
プラザーズに助けられた?——藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人——アリス・ポマロイ

No.115

平成3年10月25日発行 ￥900

- アダムスキーとUFO問題の真相——ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見!——
28年ぶり宇宙からの帰還?——
突然消滅した10人の少年少女/——
暗闇から現れた不思議な人々——
円筒型の奇妙な物体を見る——服部哲雄
謎の飛行物体、米子に出現——斎藤俊徳
UFOの色彩についての一考察——久保田八郎
UFOと古代マヤの謎——

No.114

平成3年7月25日発行 ￥900

- 日本GAP 全国ネットワークテレバーショール UFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景——松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン——高木 澄
奇跡を起こす想念の力——遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た/——松浦義教
タバコの謎の大爆発——ジャン・パジック博士
アダムスキーの主張は正しかった——ダニエル・ロス

No.113

平成3年4月25日発行 ￥900

- ファティマの大円盤出現事件——久保田八郎
奇跡のペンドントと転生の法則——ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験——中村省三
オーラ透視力開発法——遠藤昭則
壁画の奇跡——永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO——北館博子
クリスマス前のUFO出現——伊藤芳和
私のUFO目撃体験——平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)——ダニエル・ロス

No.112

平成3年1月25日発行 ￥900

- アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった/——ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)——G.アダムスキー
<写真>金星の不思議なスジ模様——
青森県に頻発するUFO出現事件——
UFO-宇宙からの完全な証拠(14)——ダニエル・ロス

No.111

平成2年10月25日発行 ￥900

- 高度に進化した金星人の実態——G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ——久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO——村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ——番場博次
松本市にもフットボール型UFO——茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤——堀江健一
私のテレパシックな不思議人生——郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠(13)——ダニエル・ロス

No.110

平成2年7月25日発行 ￥900

- UFOの正体と観測の仕方——本誌編集部
UFO・異星人と遭遇体験記——藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法——久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視——遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話——向井 裕
アメリカGAP発足!/(完)——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(12)——ダニエル・ロス

No.109

平成2年4月25日発行 ￥900

- 豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続—G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現/——
デサートセンター円盤着陸事件(2)——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラ——遠藤昭則/秋山真人
「アメリカGAP」発足!/——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠(11)——ダニエル・ロス

No.108

平成2年1月25日発行 ￥900

- 地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山真人
潜在意識としてのDNA——N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美美子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
ロイよ、来て助けておくれ/——久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠(10)——ダニエル・ロス

No.107

平成元年10月25日発行 ￥900

- テレパシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はペラーでUFOを見た——富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)——向井 裕
超能力開発の基礎レッスン——齊藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106

平成元年7月25日発行 ￥900

- 金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人(2)——向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
ヒーリングとテレパシー——遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察——N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠(9)——ダニエル・ロス

No.105

平成元年4月25日発行 ￥900

- デサートセンター円盤着陸事件——久保田八郎/篠芳史/坂本貞一/茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人(1)——向井 裕
過去生透視法とその実例(2)——遠藤昭則
輝く星々の彼方へ——齊藤庄一
長野県に巨大UFO出現!——博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠(8)——ダニエル・ロス

No.104

平成元年1月25日発行 ￥900

- UFO問題と世界の運命——久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助——アリス・ポマロイ
デサートセンターで円盤着陸痕跡発見!/安藤澄雄/久保田八郎
過去生透視法とその実例——遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠(7)——ダニエル・ロス
GAP活動の原理——ダニエル・ロス



▲東京月例会セミナー（2月16日／機械振興会館）
前列中央は久保田会長、その右は講演者の高梨十光氏。

英文版「UFO contactee」No.7

申込先▶日本GAP

B5／12頁／コート紙使用／
¥500（送料¥175／3冊まで¥250）

世界のUFO研究会で注目の的になっている日本GAP発行英文版は、各国UFO研究家や団体が絶賛。UFO問題は国境を越えた宇宙的な要素を帯びていますから、英文による国際版が情報伝達に重要。No.7はコンタクティー春川正一氏(仮名)の宇宙的体験記事「A Young Japanese Man Visits Other Planets.」の連載最終回、アダム・スキーの質疑応答を掲載。いずれも流麗な英文による貴重な情報源となるもので、英語学習用テキストとしても最適。両記事とも質疑応答形式なので、UFOや宇宙的思想を話題とする高度な英会話の習得に絶好の資料になります。

編集後記

◆本号はデザートセンター特集号としました。あくまでも実地検証の繰り返しを続けていますが、今回のは思いがけず巨大母船が出現して目撃者一同を驚喜させました。少々長い記事ですが読みごたえがあると自負します。

◆秋山氏との対談も前号で好評を博し、ぜひ続編をやれという声にお応えして再度座談会を開きました。次号で完結します。内容は濃くてきわめて啓蒙的です。氏がどのような人物であるかが理解できるというものです。

◆前号での約束どおり反復思念法とイメージ編集をやれという声でお応えして再度座談会を開きました。次号で完結します。内容は濃くてきわめて啓蒙的です。氏がどのような人物であるかが理解できるというものです。

◆アリス・ボマロイ女史の連載も大好評裡に完結しました。女史の真摯な態度はまさにアダム・スキーの高弟にふさわしいのです。現在はアダム・スキー関係資料の整理で多忙をきわめているということです。

◆UFOは依然として各地に出現し続けています。こればかりは否定のしようのない厳然たる事実です。誰がどのように目撲しても目撲は続くでしょう。UFO現象をオカルトと同一視するのはあまりにも非科学的です。

◆UFO目撲報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの不得手な人は面談でも結構です。

◆本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

(K)

◆本号はデザートセンター特集号としました。あくまでも実地検証の繰り返しを続けていますが、今回のは思いがけず巨大母船が出現して目撲者一同を驚喜させました。少々長い記事ですが読みごたえがあると自負します。

◆秋山氏との対談も前号で好評を博し、ぜひ続編をやれという声にお応えして再度座談会を開きました。次号で完結します。内容は濃くてきわめて啓蒙的です。氏がどのような人物であるかが理解できるというものです。

◆アリス・ボマロイ女史の連載も大好評裡に完結しました。女史の真摯な態度はまさにアダム・スキーの高弟にふさわしいのです。現在はアダム・スキー関係資料の整理で多忙をきわめているということです。

◆UFOは依然として各地に出現し続けています。こればかりは否定のしようのない厳然たる事実です。誰がどのように目撲しても目撲は続くでしょう。UFO現象をオカルトと同一視するのはあまりにも非科学的です。

◆UFO目撲報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの不得手な人は面談でも結構です。

◆本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP機関誌・季刊
UFO contactee 夏季号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1
振替 東京4-35912
定価九二七円(本体九〇〇円・送料210円)
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

全面改訂・改訳 全10巻

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。 UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。 旧全集を全面改訂した最新決定版。 世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1880円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶の大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

② 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他） 182頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び靈界通信の証り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の統編として必読のテキスト。

アダムスキー

④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が充実して1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の統編。

アダムスキー

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球上が「真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド（心）と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訃報。久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊！

アダムスキーの煮胸を受けた人達の論説、講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アシの高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ビーターセン、金星文字を解説して画期的な永久モーターを開発したパーシ・バン・デン・バーグらの證言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

壮大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの主人公の人間像を充実に描か。これ1冊でアダムスキー問題の向たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ガイ・ペツツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥120



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。9.3cm×8.8cm。



ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の图形カードが各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯に便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥900 送料 ¥120 (2~5個 ¥175)



¥500 送料 ¥62

テレホンカード

日本GAP特製のテレホンカード第5弾。今度はアダムスキーの原書からオーソン氏のスケッチを取り入れました。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターで会見した金星人の姿を目撃者のアリス・ウェルズ女史がスケッチしたものです。

¥1,500 送料 10枚まで ¥62



GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥120



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料 4個まで ¥120

新アダムスキー全集★★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!! ★★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。

申込先

住所、氏名、電話番号、商品番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当

方へ到着するまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 ☎03-3651-0958

日本GAP 振替・東京4-35912



日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京本部月例会

毎月開催される日本GAP東京月例研究会セミナーから、久保田会長の解説講義と質疑応答その他を録音したもの。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあこり、人生の荒波に屈することなく堂々と前進できます。

●テープ① ¥1,300 送料 ¥175

〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集の解説講義、近況報告。

●テープ② ¥1,000 送料 ¥175

〈内容〉超能力開発練習。質疑応答。

※①②一括ご注文の場合は送料 ¥250。

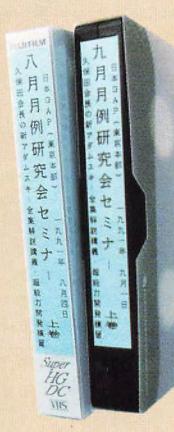
※1990年以前のバックナンバーもあります。

往復ハガキでお問い合わせ下さい。

●1991年度日本GAP総会

2巻セット ¥3,900 送料 ¥250

〈内容〉ハンス・ピーターセン氏講演、他。



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京月例会セミナー 全1巻 ¥4,000

〈内容〉久保田会長の解説講義、他。約120分。(1990年12月分から在庫有)

●日本GAP総会 全2巻 各¥3,000

〈内容〉毎年の日本GAP総会を完全収録。(1989年分から在庫有)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3,000

〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫有)

●デンマークGAP大会 全2巻 各¥3,000

〈内容〉上巻=久保田会長の講演(英語)、他。英語テキスト(和訳付)もついているので英語学習にも好適!

下巻=美しいデンマークの探訪記録。

送料はいずれも1本¥360、2本¥510。

申込先

「商品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 ☎03-3653-9387

松村 芳之 振替・東京0-162644

申込先

「商品名」「〇年〇月分」「上・下巻」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 ☎03-3351-9526

伊東 芳和 振替・東京4-13811

平成4年度
日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会 費	Pro gramm・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月のみ第2日曜日の10日に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=5月より『生命の科学』 3:10→5:00 超能力開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※今年度は1月から10月まで会場と日程の変更があるので平塚宛問い合わせること。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1~10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141㈹。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお城屋橋経由動物公園方面バスで約7~10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせすること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	具市川市栄巣野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=比嘉政広 ☎09893-3-2889	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※5月・6月のみ時間を10:00→17:00に変更。 (研究発表・スライド上映を予定)	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※今年2月より月例会を再開。日時と会場について小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、閑宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先=閑 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同上

お好みのサブリミナルテープ[®]を 1本(60分テープ) (デジタル録音)無料進呈!

先着
250
名限

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際の効果を試せるベーシックテープ(60分・デジタル録音)をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。

▶今すぐおハガキ・お電話でお申込み下さい。

下のテープの中から、お好みのテープを選べます!

『自分の能力への自信の強化』	『女性への緊張感の除去』
『自分の可能性への確信』	『男性への緊張感の除去』
『ビジネス能力開発への意欲』	『偉大な成功へのイメージを描く』
『本来の自分を取り戻す』	『幸運な人生をめざす』
『自分自身への自信』	『経済的成功への自信』
『人間関係の苦手意識の克服』	『充実人生獲得への自信』
『人間的魅力を養う』	
『自分の魅力に気づく』	

(詳しくは、お届けする案内書をご覧下さい。)



サブリミナルテープ[®]の美しい音楽をBGMとして聴くだけで
あなたの人生が変わる!

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数に変換された心理的メッセージ」を同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

■無料サブリミナル・ベーシックテープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上「無料ベーシックテープ案内書と商品券」と下記までお電話・おハガキでお申込み下さい。(お申込みいただきま



私もサブリミナル
テープで絶好調です

「サブリミナル・ベーシック
テープ案内書と
商品引換券」希望
●住所
●氏名
●年令
●職業
●電話番号

41円
郵便はがき
〒107
東京都港区
アメリカンライブラリー社
1-26-4
南青山
1554係

すと、折返し、サブリミナル・ベーシックテープの商品引換券ハガキと詳しい案内書をお送りいたします。
お電話でのお申込みは
0120-363002
(受付AM8~PM24、日・祝日も受付中)

〒107 東京都港区南青山1-26-4 アメリカンライブラリー社 1554係

▶広瀬綾子(プロテニスプレイヤー)
'91ダンロップ・マスターズのダブルスで優勝し、波に乗って現在人気・実力とも急上昇中の女子プロテニス界の新星。

